

卒業制作・論文作品集 11

畿央大学健康科学部
人間環境デザイン学科
2016

The 11th Graduation Works.
Kio university
department of Human Environmental Design.

御挨拶

第11回卒業制作・論文作品集には、この春卒業する人間環境デザイン学科の卒業制作と論文の作品が収録されています。この作品集の記録は卒業生たちの4年間の畿央大学における学びの到達点を示しています。

ここに収録されている作品は学内や奈良文化会館でも展示されました。展示会では、制作作品や論文のポスターの実物を見ながら説明を受けました。その説明から、作品として仕上げる過程での試行錯誤や工夫が分かり、さらに作品に込められた「思い」と、ひたむきな若さを感じました。

この作品集に収録されている作品の写真や論文記録は、卒業時点での貴重な記録です。掲載されている作品をみて、よくここまで仕上げる事ができたと思う人から、まだまだこれでは納得できないと思う人まで大きな幅があると思いますが、一度しかない人生の卒業時点での到達点であることには違いがありません。

卒業される皆さんは、これからは社会の中で人の生活に関係する具体的な物から抽象的なものを「デザインする」分野で活躍されることになります。人のためにデザインすることで、さらに大きく成長されることを期待します。建学の精神の「美をつくる」を目指し、人に感動を与えてください。何年後に、この作品集を開くことがあれば、その時にはご自身の成長を確認することができ、さらなる成長につながると思います。その意味において、この作品集はお一人おひとりにとって「宝物」です。

最後に、卒業までの間ご指導いただいた先生方にお礼と、卒業後も引き続き良き関係を保っていただくことを願ってご挨拶とさせていただきます。

畿央大学 学長

冬木 正彦

3 御挨拶

INDEX

制作

8	学長賞 藤山 大輔	街の大屋根 ～桜井駅及び駅前再開発による観光促進計画～
12	優秀賞 野村 祐司	「Almo Takada」～大和高田市庁舎改修計画～
14	優秀賞 小笹 夏海	心躍る ～都浅黄のきらめ黄～
16	優秀賞 小松 智菜美	Spin a story ～5つの…～
18	優秀賞 土井 美沙	天性寺参道計画 ～蛸地蔵尊縁起絵巻の世界～
20	東 朝美	さをりのもり
21	石川 紗里	あか灯り
22	伊藤 沙紀	Kids House
23	金谷 美希	スモッキングとドレープの共演
24	木之本 琴子	鶴橋の屋根
25	小林 由佳理	真綿を纏う ～布団を応用して～
26	近藤 和陽	大和高田市公共施設改修計画～生涯学習センターつながり～
27	佐々木 大貴	中百舌鳥球場
28	佐野 芹奈	しにあ しえあ はうす ー高架下建築ー
29	芝下 拓摩	小児科付保育園
30	清水 美裕	東大阪 学生の城
31	清水 康平	自転車の道の駅
32	多田 遥香	Wedding Bldg. DANCE
33	田中 さくら	NIGIYA家
34	田村 拓也	Yagi Railway Terrace
35	大道 康輝	STREET UNDER PARK ～ CAMPUS ～
36	二階堂 瑛梨	お風呂に避難 ～サニタリーユニットによる自宅内シェルター～
37	橋爪 美春 平井 美香	乳がん術後用入浴着の試作

38	原 涼子	Water museum
39	藤原 香穂	Wood Bambi
40	松田 瑞希	NARA FUTSAL ARENA
41	松田 竜樹	伊賀の食品工場改修案
42	萬本 萌	ー奈良で作り、奈良を着るー
43	宮村 光輝	NewBrand NewArrival NewTraditional
44	村上 桃	からむしのある暮らし
45	山口 夏奈	行灯硝子
46	吉原 佐織	貝ボタンのあかり

研究

48	新井 将也	ブランドロゴの色彩イメージに関する研究 ～ファストファッションブランドを中心に～
50	石原 卓磨	公共施設の利用促進に関する研究 ～広陵町グリーンドームを事例に～
52	石橋 佑資 東本 衣里	高齢者の熱中症対策に関する研究
54	竹中 千晶	綿を使ったものづくり ～家庭科の授業のための一試行～
56	田中 翠	学生およびその家族における インテリアグリーンの利用実態について
58	野田 真之介	地域活性化イベントの継続的な実施に関する研究 ～枚方宿くらわんか五六市・やどかり市を事例として～
60	原田 美波	成長段階における自室のしつらえの変化について
62	平井 直大	ソフト事業を核とした持続可能な商店街活性化に関する研究 ～御所駅前商店街を事例として～
64	藤本 亜美	商業施設におけるキッズコーナーの利用実態について ーエコール・マミ「キッズパーク」を例にー
66	保坂 ゆき	三世代同居における住宅諸室の共用希望の違いに関する研究
68	吉川 凌	エアコン内部における真菌汚染の実態調査 ー管理・使用上状況に着目してー
70	松下 真純	地域住民主導型コミュニティカフェの運営モデル
72	制作・研究風景	
74	講評会風景	
76	展覧会風景	
81	講評	



藤山 大輔

Daisuke Fujiyama

加藤ゼミ

さくらい

街の大屋根

～桜井駅、及び駅前再開発による観光促進計画～

奈良県桜井市は、数多くの観光名所があるがあまり知られていない。そこで私は観光の促進を目的とした駅及び駅前の再開発を提案する。

発祥の地と呼ばれた桜井から新しく生まれる観光の拠点となる駅。訪れる人に桜井の魅力を感じてもらい、街に出かけたいくなる建築に。

「さあ、出かけよう街へ」

さくらい

街の大屋根

～桜井駅、及び駅前再開発による観光促進計画～

「さくらいってええ街やなあ」

「こんなに観光名所があったんか」

そんな声が大屋根から聞こえてくる。

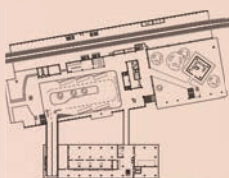
ここは、桜井の街の魅力が溢れ出す観光駅。

桜井市には数多くの観光名所があるがあまり知られていない。
そこで私は、駅を訪れる人が桜井の文化、歴史を学び、工芸を
体験し、自然を感じられる駅に。

さくらい

「さあ、出かけよう街へ」

- 計画 -



2階平面図

□駅(学ぶ、見る、感じる)

バスターミナル：観光地へスムーズに
アクセス可能。

2つの広場

時計広場：バスターミナルから見え、
人々が集まる空間。

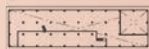
展望広場：自然を感じられる空間。

13 重の塔がランドマークになる。

観光インフォメーション、ショップ

□駅(見る)

展望台：桜井の町並み、三輪
山を一望できる空間。
春は桜、夏は花火、
秋は紅葉、冬は夜空。
四季折々に楽しめる
空間。



4階平面図

□文化観光センター(学ぶ)

博物館、ホール：文化、歴史を学ぶ空間。

□文化観光センター(学ぶ)

自習室：誰もが利用できる。



配置図 1階平面図

□駅(感じる、体験)

工芸教室：桜井の工芸を体験できる。

駐輪場：レンタサイクルできる。

交流広場：市民が交流できる空間。

ショップ、カフェ、交番、公衆トイレ
観光インフォメーション

□文化観光センター(学ぶ)

まほろばセンターの機能、
(ギャラリー、会議室、研修室、
調理室、和室)、銀行



3階平面図

□駅(見る)

展望台(階段、EV)



□文化観光センター(学ぶ)

ブックカフェ：一息でき、
調べものができる。

□デザインの原理

人々が築き、守ってきた歴史や文化を大切にしたい。そんな想いから三輪山、大神神社、また、談山神社の13重の塔をモチーフにした駅である。桜井らしく、また街に溶け込む「新しい山」をイメージし、デザインした。

発祥の地と呼ばれた桜井に

新たに街の顔となる駅が誕生する。



ご祭神の大神主大神（おおものぬしのおおかみ）がお山に鎮まるために、古来本殿は設けずに拝殿の奥にある三ツ鳥居を通し三輪山を拝するという原初の神祀りの様を伝える我が国最古の神社である。 大神神社 ※1



大神神社 ※2



大神神社 ※3



談山神社 ※4



- ※ 1 <http://oomiwa.or.jp/jinja/>
- ※ 2 <http://small-life.com/archives/10/04/1120.php>
- ※ 3 <http://oomiwa.or.jp/jinja/miwayama/#linktop>
- ※ 4 <http://jp-isan.com/tanzanjinja.html>

受賞のことば

このたびは、最優秀賞を頂き、大変嬉しく思うとともに、ご指導して下さった先生方、一緒に頑張ってきたデザインのみんなど、お手伝いをしてくれた後輩たち、そして支えてくれた両親には感謝しています。特に R301 の住人のみんなどには言葉では伝え切れないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。僕自身、プレッシャーと不安で押し潰されそうな時もありましたが、周りにはたくさんの友達がいて支えてくれました。ありがとうございました。

作品の成績よりも、もっとも大切なものを見つけた、そんな 4 年間でした。

素敵な 4 年間をありがとうございました。



野村 祐司

Yuji Nomura

三井田ゼミ

「Almo Takada」

～大和高田市庁舎改修計画案～

高田市にはシンボルとなる場所はあるが、シンボリック建築がない。

高田のシンボルである“高田川”“桜”を生かし、

市民と役所の人々が集まり繋がり、

憩いの場として利用できる新しい複合施設型の市庁舎を計画。

高田に活気と賑わいを再び!!





小笹 夏海

Natsumi Ozasa

村田ゼミ

心躍る～都浅黄のきらめ黄～

都浅黄を生かして、見るだけで心躍るような華やかな着物を制作。

柄は無地とストライプで他の色との組み合わせを楽しんだり、

立体刺繍には絹糸と紡ぎ糸を組み合わせ、都浅黄の様々な楽しみ方を、作品に盛り込んだ。





小松 智菜美

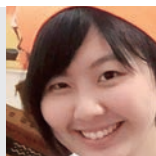
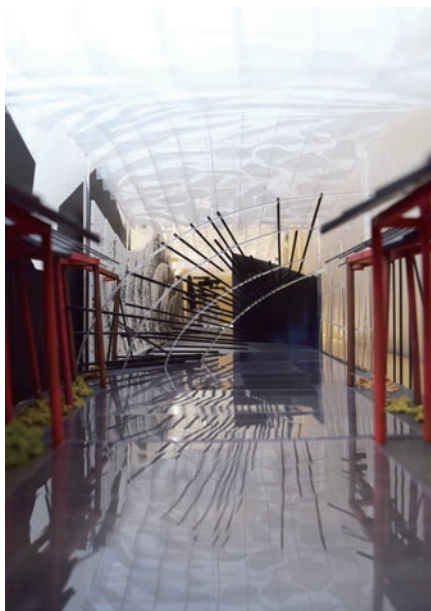
Chinami Komatsu

村田ゼミ

Spin a story ~5つの…~

『Spin a story ~5つの…~』綿の途切れない特徴を生かしたウェディング衣装。
自分で種から育てたコットンを使用し、
新郎新婦のイメージに合ったナチュラルさをクンスト編みで表現。
5つの変化がある衣装には後に継がれる思いを込めた。





土井 美沙

Misa Doi

藤井ゼミ

天性寺参道計画～蛸地藏尊縁起絵巻の世界～

岸和田に「蛸地藏さん」と呼ばれる寺院・天性寺があります。

この呼び名は、岸和田が蛸に乗ったお地藏さまに

津波と戦乱から二度救われたという逸話が由来です。

この計画では天性寺参道に、物語を今に伝える「蛸地藏尊縁起絵巻」の世界を表現しました。参道を進むにつれ、「衰退の世界」「戦乱の世界」など、物語の情景が次々に描き出されてゆきます。

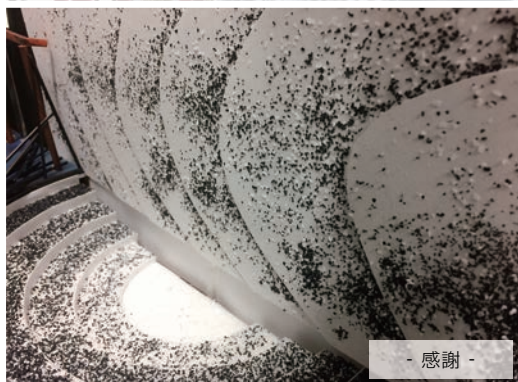
絵巻物の世界に思いを馳せながら歩き、蛸地藏さんに会いに来ませんか。



- 衰退 -



- 大波 -



- 感謝 -



- 戦乱 -



- 夢・傷・主張 -

七つの世界を
歩いた先には――



- 蛸地藏天性寺 -



東 朝美

Asami Azuma

三井田ゼミ

さをりのもり

広い敷地と豊かな自然を活用した「さをり織り」の体験型施設を設計した。
「さをりのもり」は“ひとと自然をみつめる織り空間”であり、
“織りの中に自分の感性を素直に表現できる空間”である。
ここで生まれたもののすべてがその人にとっての大切な宝物になる。



あか灯り

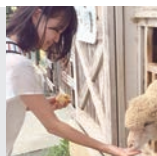
世界共通のコミュニケーションツールである、あやとり。
あやとりの知恵から学び、異文化同士でも共感できるオブジェクトを目指した。
十人十色、思うことはそれぞれだというのが今の世論。
しかし、皆と同じ気持ちを共有できるというのも素敵だ。



石川 紗里

Sari Ishikawa

加藤ゼミ



伊藤 沙紀

Saki ito

加藤ゼミ

Kids House

3歳以上の子どもを対象としたおもちゃと棚を組み合わせた自分だけのおもちゃ箱「Kids House」。

家と窓をモチーフにし、親しみやすく、かわいらしいデザインを心掛けた。木のぬくもりを肌で感じながらお片付け、遊びを楽しんでほしい。



スモッキングとドレープの共演

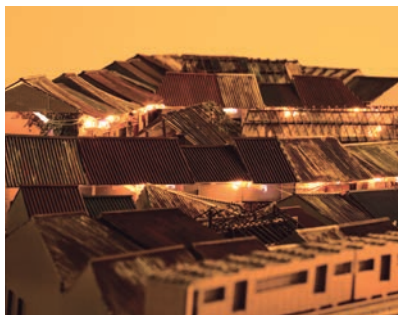
衣類を装飾する刺繍技法の一つであるスモッキングとそこからできるドレープ。二つが共演したときに生まれるものは、不思議さと優美さと手作りならではの暖かみ。そこにオリジナルを加えた作品です。



金谷 美希

Miki Kanetani

村田ゼミ



木之本 琴子

Kotoko Kinomoto

藤井ゼミ

鶴橋の屋根

その錆びた屋根並は私の目を奪った。
瞬間に想像したのだ、橙色に染まった大阪昭和の町並みを。

わたしが鶴橋を見つけた日だ。

電車の窓から、切妻トタン屋根の連なりが見える。
そして、その屋根が生み出すにぎわい豊かな細い路地。

この鶴橋をなくしたくない。そんな思いをこめて再開発計画を提案した。



真綿を纏う～布団を応用して～

真綿は防寒着の中綿として古くから利用され、
掛布団や半纏、背負い真綿など、
さまざまな真綿で作られた物があり感動した。
それらを現代風に制作した。



小林 由佳理

Yukari Kobayashi

村田ゼミ



近藤 和陽

Kazuaki Kondo

三井田ゼミ

大和高田市公共施設改修計画 ～生涯学習センターつながり～

人がふらっと立ち寄れるような広場、
立ち寄った先にある生涯学習センター
この2つの空間を通して人と人が交流することが出来る
市民のよりどころを考えた。
人と人の『つながり』を切らないことで計画地だけでなく
この地域一帯をさらなる活性化へと導く。



中百舌鳥球場

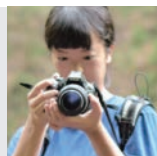
日本の野球観戦のイメージを変えたい。
ただ球場に行つて、席に座って見る野球観戦ではなく、
何かをしながら、日常生活の中で野球を見ることが出来るような
そんな新たな娯楽を楽しんでほしい。
スポーツ観戦のイメージを覆そうと考えた。



佐々木 大貴

Daiki Sasaki

三井田ゼミ



佐野 芹奈

Serina Sano

三井田ゼミ

しにあ しえあ はうす ー高架下建築ー

増え続ける高架下。だが都市から切り離され薄暗い空間となりやすい。
高架下の薄暗いイメージを払拭し、
また、日本において避けられない少子高齢化の未来を見越し
高齢者専用のシェアハウスを計画した。



小児科付保育園

現在、病院が建っていますが閉鎖されております。
 周辺住民の方のため代替できる病院を考えました。
 周辺の人口分布を調べると子供が多く小児科の病院が少ない為、
 小児科病院をつくりました。併設する施設として
 親が仕事をしやすい環境も考え、保育園を考えました。



芝下 拓摩

Takuma Shibashita

三井田ゼミ

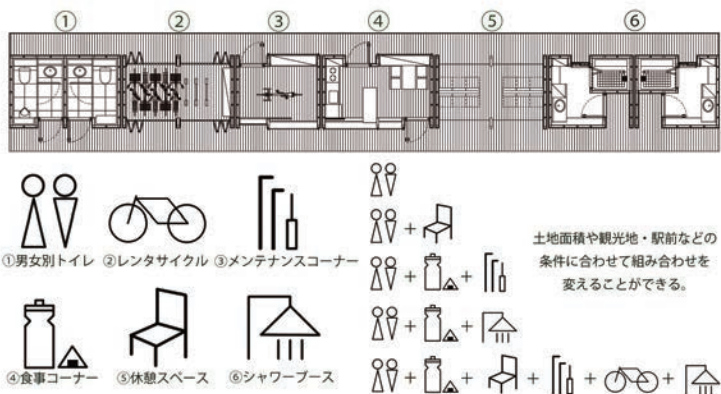


清水 美裕
Mihiro Shimizu

藤井ゼミ

東大阪 学生の城

東大阪市の市立病院跡地の利用計画。
5つもの大学に近接する立地を活かし、
大学生同士のコミュニティとなる学生会館を計画する。
学生寮や学生自治会、学生たちの作品展示や発表の場を設け、
学生たちのエネルギーあふれる空間にしたい。



自転車の道の駅

近年ブームのサイクリング。

奈良県でもサイクリングルートや休憩場所が設定されている。

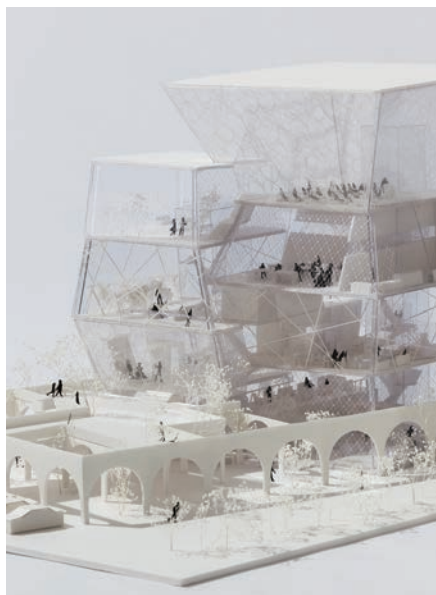
しかし、その休憩場所のほとんどはコンビニエンスストアで、実は休憩をとることが難しく、奈良県で自転車を楽しもうと考えている人にとっては、親しみ辛いのではないかと考えた。そこで、自転車のための休憩所（道の駅）を設計し、サイクリングルート全体に設置する。さらに、機能ごとに建物を独立させ、その土地・利用者に合わせて自由に組み合わせることを可能とさせる。



清水 康平

Kohei Shimizu

三井田ゼミ



多田 遥香
Haruka Tada

加藤ゼミ

Wedding Bldg. DANCE

永遠の喜びを願い、愛を誓いあう場所は
ふたりにとって
いつまでも特別であってほしい。
行き慣れた土地で、
最もふたりらしいウェディングを選ぶことができる。
そんな会場を考えた。



NIGIYA家

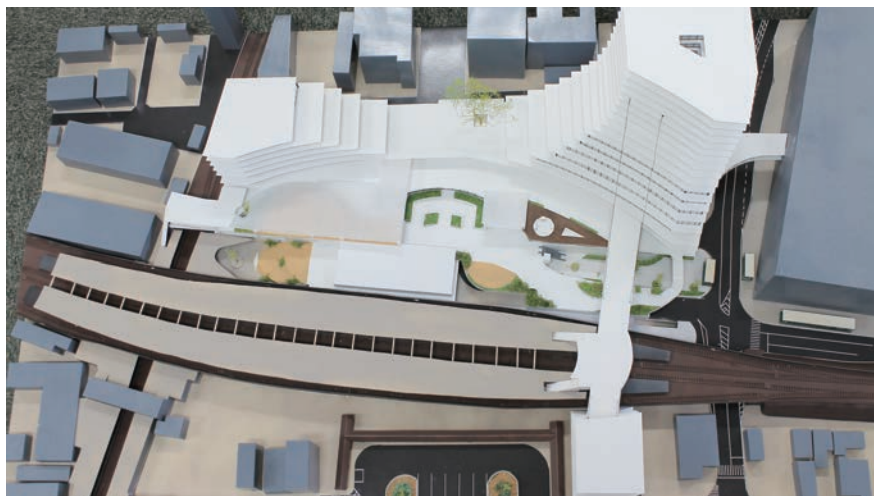
高齢化社会が進む中社会全体で高齢者介護を支えるとともに、
高齢者向けの住宅・施設整備を充実させる必要がある。
そこで高齢者・障がいを持った方・子供全ての人の生活を助け、
力を合わせて運営する古民家カフェ兼サービス付き高齢者住宅を考えた。



田中 さくら

Sakura Tanaka

加藤ゼミ

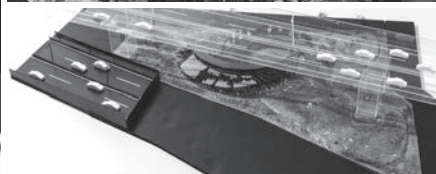
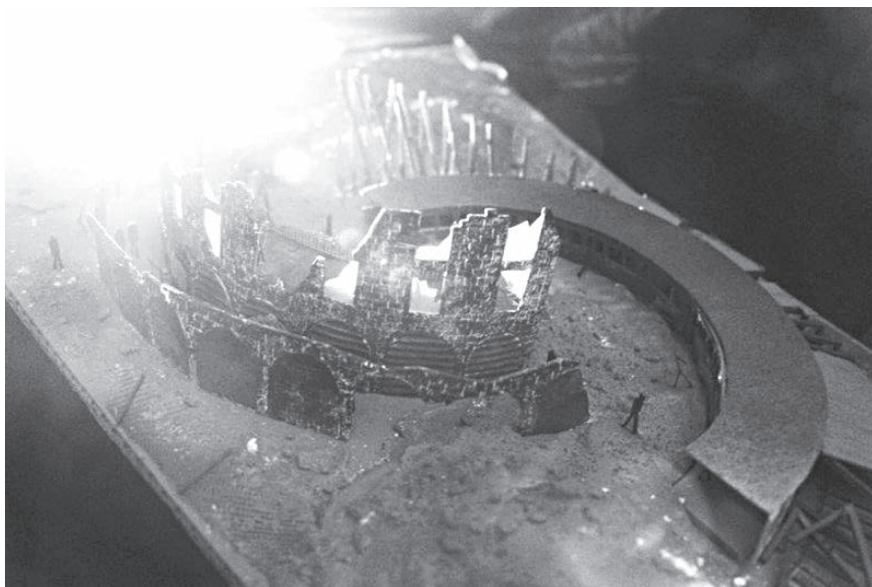


田村 拓也
Takuya Tamura

藤井ゼミ

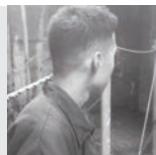
Yagi Railway Terrace

大和八木駅は交通の要衝なのに、その北口は裏口でしか無い。歩行者のための段状の広場をつくり、広場を鉄道ホームと直結し、そこへ商業施設を呼び込むことで、景観と賑わいを創り出す。更には、再開発済みの南口との一体化も計画した。



STREET UNDER PARK ~ CAMPUS ~

街で見かける落書きは迷惑行為という認識が強くすぐに消されてしまう。
そこで自由に落書きができるきっかけをつくりたいと思い、
阪神高速高架下の空き地にグラフィティアーティストのための公園を設計した。



大道 康輝
Kohki Daido

加藤ゼミ



通常時



避難時
(食事)



避難時
(就寝)



二階堂 瑛梨

Eri Nikaido

藤井ゼミ

お風呂に避難 ～サニタリーユニットによる自宅内シェルター～

地震被災時、自宅内避難を可能にするシェルターを計画。

小空間ゆえ補強が容易で元々住宅インフラが完備したサニタリーユニットを改造し、被災時には家具や建具を動かすことで、そこで過ごしそこで眠り得るものにする。



乳がん術後用入浴着の試作

乳がん経験者の方々が、術後の傷跡を気にすることなく入浴を楽しむことのできる、乳がん術後用入浴着です。



橋爪 美春

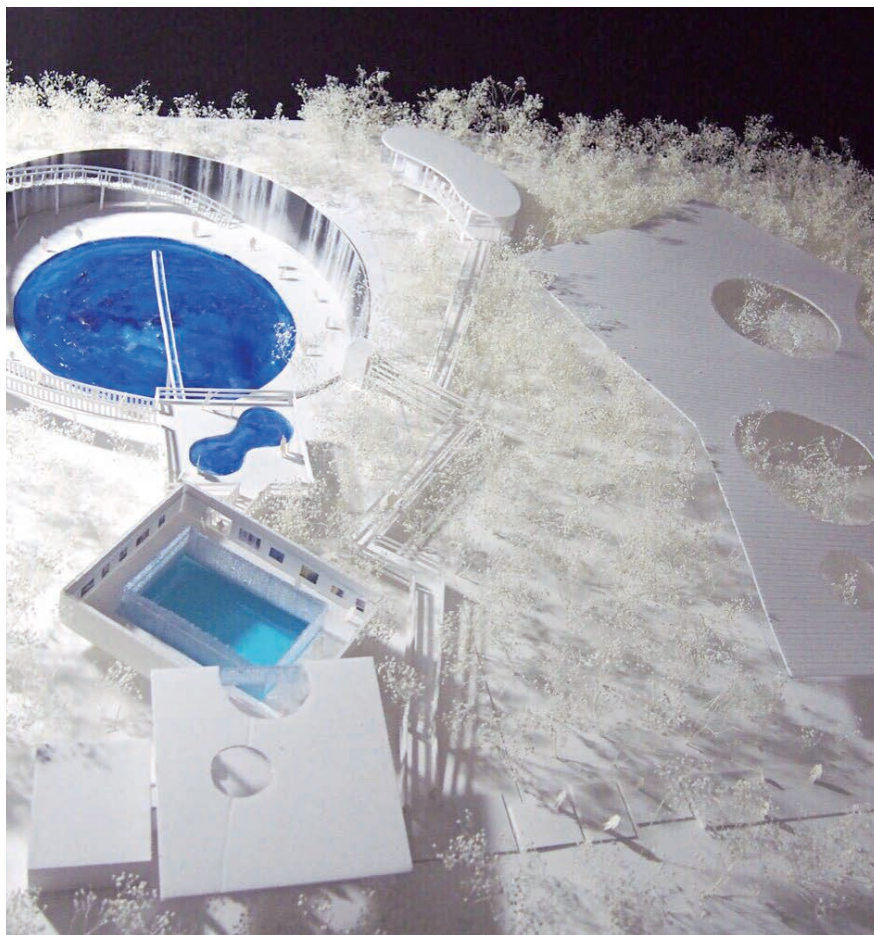
Miharu Hashizume



平井 美香

Mika Hirai

村田ゼミ



原 涼子

Ryoko Hara

加藤ゼミ

Water museum

滝をテーマにした美術館です。
訪れた人が自然に癒されていたきたい。
有名な画家千住博さんの絵の素晴らしさを
感じることでできる場所です。



Wood Bambi

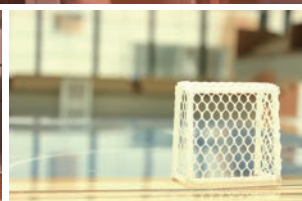
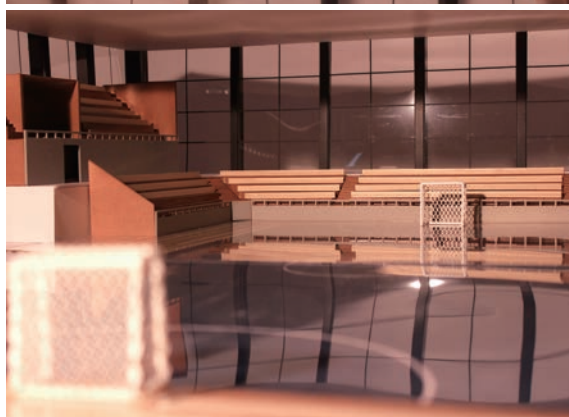
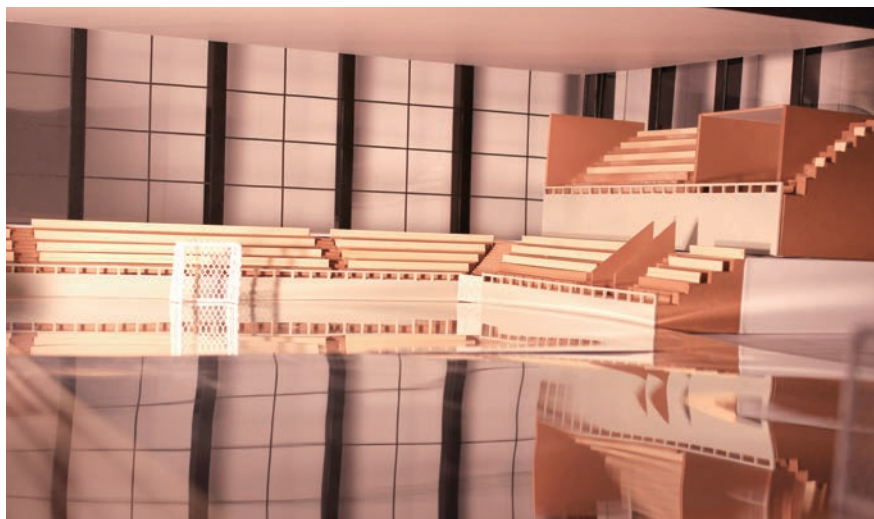
木の香りや肌触り、温もりを感じられる子供の乗り物玩具。
現在ほとんどが木馬であるが奈良に因んで鹿のデザインに。
背中に乗って遊んだり、背中の座面がフタになっているので
中にお気に入りのおもちゃやぬいぐるみをしまっておもちゃ箱にもできる。



藤原 香穂

Kaho Fujiwara

加藤ゼミ

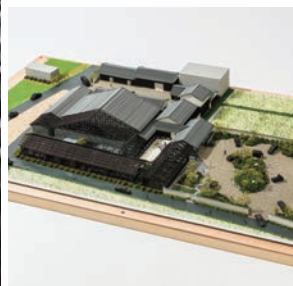
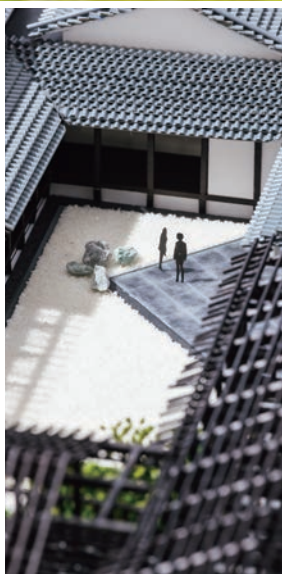
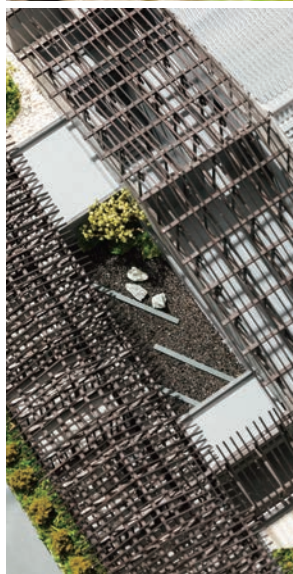


松田 瑞希
Mizuki Matsuda

三井田ゼミ

NARA FUTSAL ARENA

洗練された吉野の木材を使い、格子そして黒の重厚感。
そしてプロリーグで使えるアリーナを奈良に。



伊賀の食品工場改修案

「工場」は大きい。そして、伊賀の田園地帯はもっと大きい。
 その田園地帯の邪魔をするかのように目に写り込んでくる老朽化した箱建築。
 その風景は決して美しいとは言えない。
 大規模で大量生産するという点では田んぼと工場の機能は同じである。
 その2つがどのように町と調和し、美しい景色を描けるかを考えた。



松田 竜樹
Tatsuki Matsuda

三井田ゼミ



萬本 萌

Moe Manmoto

村田ゼミ

—奈良で作り、奈良を着る—

奈良県の特産品である吉野葛を製造する際に廃棄されていた葛根を再利用した繊維が藍染、織り、を経て浴衣に。

奈良の葛と京都の藍が生み出す日本の夏の伝統衣装。



NewBrand NewArrival NewTraditional

夏の服をおしゃれに快適に…

新たな奈良のエコスタイル。

新ブランドの商品をファッションショーで紹介。

咲良史歌鹿を用いたスタイリングの提案をファッション雑誌としてまとめた。



宮村 光輝

Mitsuki Miyamura

村田ゼミ



村上 桃

Momo Murakami

村田ゼミ

からむしのある暮らし

人の手を感じる細やかさと、自然で心地よいシャリ感が印象的なからむし。糸の原料になる青苧の繊維を手で績んで、長い時間をかけて糸にしていく。もう雑草なんて言わせない！



行灯硝子

現在、住生活の洋風化に伴い一般の住宅における畳空間でも、現代性を加味した構成が志向されている。

和室にヨーロッパ発祥のステンドグラスを取り入れる。

ステンドグラスからもれる透過色光には癒しの効果があり、生理的にも好ましいとされている。

和室で使うステンドグラスのランプをデザインした。

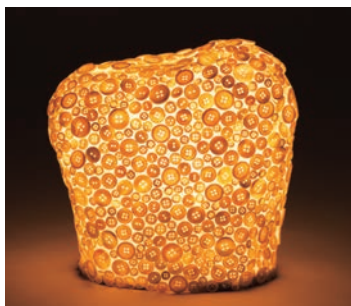
モチーフは日本の伝統的な和柄を使用した。



山口 夏奈

Kana Yamaguchi

西山ゼミ



吉原 佐織
Saori Yoshihara

加藤ゼミ

貝ボタンのあかり

鹿、東大寺、柿の葉寿司・・・

奈良県と聞いて思い浮かぶものは数少ないですが、
実は貝ボタンの生産量も日本一です。

貝ボタンを贅沢に使用し、ボタン穴からは暖かい光が灯ります。

ブランドロゴの色彩イメージに関する研究 ～ファストファッションブランドを中心に～



新井 将也
Masaya Arai

李ゼミ

1. はじめに

本研究では、アパレル業界の中でも急激に成長しているファストファッションブランドに用いられているロゴタイプからファストファッションの特徴である「安く、早い、おしゃれ」がどのように消費者に伝達されているのかを色彩を中心に検討を行う。すなわち、SPA (Specialty store retailer of Private label Apparel : アパレル製造小売業)と呼ばれる自ら企画製造し、運営する店舗で商品を直接消費者に販売するビジネスモデルを採用している、ユニクロ、GAP、ZARA、FOREVER21、H&M、ファッションセンターしまむらの日本で流行しているファストファッションブランドのCIカラーでもあるロゴカラーから伝達されるイメージについて検討を行う。

2. 試料の作成

本研究で比較する色は予備研究の回答をもとにして、ブランドの正規色、ハイブランドのイメージ色として回答数が多かった黒色、茶色、およびファストファッションブランドのイメージ色として最も回答数が多かった黄色を用いてブランドロゴを作成した。

まず文字によるブランドのイメージを排除するためにロゴの文字を反転した。そして、各ロゴの色を以下のようにPhotoshopで黒はシャネル、茶色はルイヴィトン、黄色はGUから用いて編集し、試料として用いた(図1)。



図1 研究試料(24種)

3. 試料の測定

- ①測定機器：KONICA MINOLTA色彩測定計cs-150
- ②測定場所：ロゴの文字色とベース色をランダムで3箇所測定し平均した。

表1 試料の諸元

番号	色	Y(cd/m2)	x	y
1	U正 赤	71.43	0.49	0.29
2	Z正 黒	6.33	0.31	0.32
3	S正 赤	100.68	0.41	0.32
4	G正 紺	33.52	0.26	0.26
5	H正 赤	142.90	0.49	0.27
6	F正 黒	2.10	0.42	0.30
7	白	294.00	0.32	0.32
8	黒	2.13	0.31	0.30
9	茶	139.27	0.39	0.33
10	黄	322.50	0.37	0.43

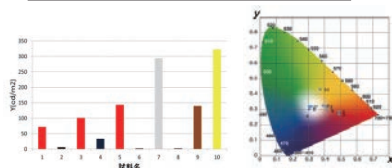


図2 試料の輝度値

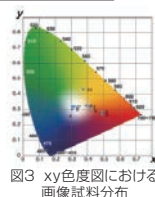


図3 xy色度図における画像試料分布

公共施設の利用促進に関する研究 ～広陵グリーンドームを事例に～



石原 卓磨
Takuma Ishihara

清水ゼミ

1. 研究背景・目的

我が国では公共施設の「施設の老朽化」「住民からの使用用途の低需要」によって公共施設の低・未利用が大きな問題となっている。このような状況は「公共施設の更新問題」といわれており、全国の自治体が共通して抱える大きな課題となっている。

そこで本研究では、近年、公共施設の低・未利用がより深刻となっている施設の一つであるゲートボール場に着目し、奈良県における利用状況を把握した上で、広陵町の広陵グリーンドームの実態調査を行った。これらにより下記の2点を明らかにすることを目的とする。

- 1) 奈良県内におけるゲートボール場の利用状況と把握
- 2) 広陵町における広陵グリーンドームの現状と課題

2. 研究方法

2-1 奈良県の各市町村のゲートボール場の実態調査

調査期間：2016年12月1日～12月28日

調査対象：奈良県の各市町村のゲートボール場の管理者44ヶ所（回収率77.1%）

調査内容：ゲートボール場の利用状況、ゲートボール場以外の転用事例

○奈良県ゲートボール場の施設について

県内に設置されているゲートボール場は図1、図2より、およそ3割が建築物を伴い、その多くがS造であった。

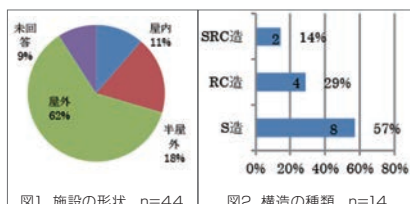


図1 施設の形状 n=44

図2 構造の種類 n=14

○利用状況について

管理者アンケートにおいて、「1週間の利用頻度」は図3より、「利用なし」と答えたのが42ヶ所のうち10ヶ所と、およそ1/4がゲートボール場を利用していない事が明らかとなった。さらに「週1回、隔週1、月1回以上」の低利用施設も含めると、ゲートボール場のおよそ半分以上が低未利用の状態となっていることがわかる。

また、施設の形状別の利用頻度では図4より、屋内型では低利用の割合が高く、半屋外・

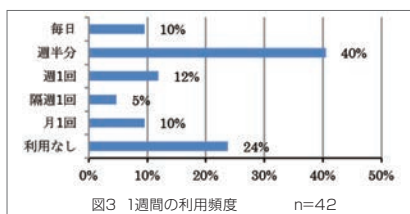


図3 1週間の利用頻度 n=42

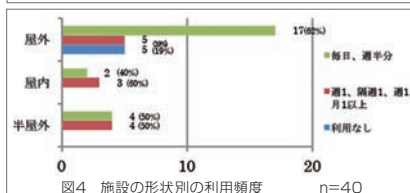


図4 施設の形状別の利用頻度 n=40

屋外型では高頻度で利用されていることがわかった。

2-2 広陵グリーンドームの実態調査

広陵グリーンドームの現状と新たな需要を把握するために町民アンケートを行った。

調査期間：2016年11月5日～12月24日

調査対象：広陵町の老人クラブ27名、

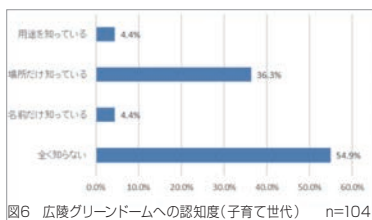
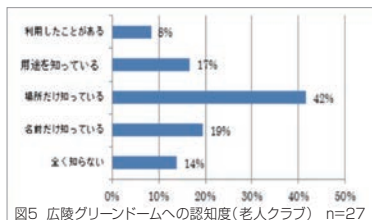
幼稚園の保護者33名、学童の保護

者71名（回収率100%）

調査内容：ゲートボール場の認知度、
施設の利用ニーズ

○広陵グリーンドームの認知度

広陵グリーンドームは高齢者専用の施設であるが老人クラブへの調査から、全体の14%の人が「全く知らない」と答え、利用した人は8%であった（図5）。また、子育て世代への調査から、高齢者専用施設ということもあり、「全く知らない」と答えた人が59%と半数以上が広陵グリーンドームを認知していなかったことがわかった（図6）。



○施設の利用ニーズ

町民に広陵グリーンドームがどのような利用ニーズがあるか尋ねたところ、子育て世代の人からは地域のイベントという意見が最も多く、その他にも地域の交流の場、バザー、

子育てサークル、雨天時のスポーツ場などがあり、地域のふれあいの場としての利用ニーズが高いことが明らかとなった。さらに、老人クラブへの調査においても地域のイベント、地域の交流の場、との回答が多いことからすべての属性に共通して、広陵グリーンドームが地域の交流の場として求められていることが明らかとなった。

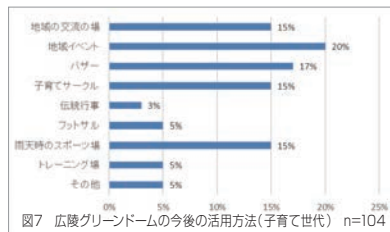


表1 属性別利用ニーズ

	老人クラブ	子育て世代
地域の交流の場	19%	40%
地域イベント	22%	56%
バザー	15%	46%
子育てサークル	11%	40%
伝統行事	3%	7%
フットサル	3%	14%
雨天時のスポーツ場	33%	40%
トレーニング場	11%	13%
その他	7%	13%

***最もニーズが高い **ニーズが高い *ニーズが高い

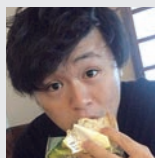
3. まとめと今後の課題

本研究では、奈良県内のゲートボール場は、半数以上が低未利用の状態にあることが明らかとなった。広陵町内での「町民アンケート」からは、競技人数が少なく、認知度も低いことが明らかとなった。また、子育て世代のみならず、老人クラブへの調査からも、高齢者対象の施設として利用するのではなく、多世代での交流が可能な施設として利用することを望まれていることがわかった。

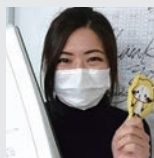
以上のことから、様々なライフスタイルが浸透する現代において、今後の公共施設のあり方は、特定の世代に向けた施設としてではなく、あらゆる世代の同じ価値価値観を持った者同士の交流が求められていると考える。

今後は、研究の機会があれば、こうしたことの裏付けを行いたい。

高齢者の熱中症対策に関する研究



石橋 佑資
Yusuke Ishibashi



東本 衣里
Eri Higashimoto

東ゼミ

1. はじめに

近年、熱中症の増加が社会問題となっている。熱中症対策が重要であるのは、暑さに対する耐性が低下しがちな高齢者と考え、実際の日常生活環境を把握し、熱中症にかかりやすい現状に対する対策を提案してその効果を検証することを本研究の目的とする。

2. 研究概要

【対象者】奈良市内に居住する健康な65歳以上の男女19名

【調査方法】年齢、性別、BMIなどをできる限り均等に2グループに分け、介入群のみに市販の製品を使ってデザインしたサーモメーター（図1）と熱中症に関する資料を配布した。

【アンケート調査項目】体質、日常生活習慣、熱中症対策、食事、摂取水分量、サーモメーターリーフ（葉っぱ）使用の満足度等

【実測調査項目】人体周囲温湿度、衣服内温湿度、（RS-13, エスペック：3日間2時間隔で自動計測）、エアコンの使用状況、着衣量、睡眠の質（OSA睡眠調査票 MA版）、活動量（FS-750, エステラ）

【調査時期】2016年8月9日～12日



自宅の居間・寝室に貼る用



持ち歩き用

図1 サーモメーター（葉っぱ）のデザイン

3. 介入条件の検証

既往研究¹⁾では、高齢者の熱中症対策の意識は十分とは言えず、温湿度計を配布したもののこまめにチェックしている割合は低かった。そこで私たちは、温度計の数字をわざわざ見に行くのではなく、受動的に「見える」ものがないと考え、市販されている様々な製品を調査した。精度を検証するために、人工気候室内に製品を設置し、25℃から34℃まで温度を連続的に変化させ、1℃変化する毎にデジタルカメラで撮影するとともに色差を測定（CR-13, コニカミノルタ）した。その結果、サーモメーターリーフ（葉っぱ）は30℃以上になると変色し（図2・図3）、高齢者疑似体験眼鏡を通して明確な色変化が確認できたため、暑さに気づくためのツールに適すると判断した。さらに、使

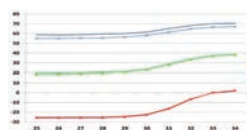


図2 温度変化に伴う葉っぱのL,a,b値の変化



図3 温度変化に伴う葉っぱの色の変化

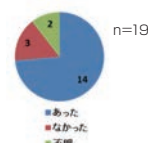


図4 葉っぱを使用することで意識や行動に変化があったか

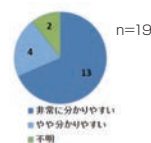


図5 葉っぱの色の変化は分かりやすかったか

い勝手についてのアンケート調査結果においても、良好な結果を得た(図4・図5)。

4. 結果

4-1 アンケート調査

介入群は熱中症になった際に冷やすべき部位を正しく認識し、外出時に水分を携帯するという回答率が高かった。

4-2 実測調査

周囲温度と温冷感申告との関係では、周囲温度が高い状況においても涼しい側の申告が散見され、若齢者を対象とした報告²⁾と結果が異なり明確な相関がみられず、高齢者の温熱的感受性の低下がうかがえた(図6)。

日中の平均周囲温度は、介入の有無にかかわらず高温であったが、介入群には平均32℃を超える被験者はいなかった(図7)。

居間のエアコンの使用率をみると、介入群の平均が約40%、非介入群は約30%、寝室では介入群の平均が約35%、非介入群の平均はその半分程度で差がみられた(図8)。

実測期間中の水分摂取量(アルコールを除く)についても介入群の平均摂取量が多く(図9)、同等の活動量(3,000~8,000歩/日)の被験者のみで比較した場合にも同様の傾向であった。

5. まとめ

熱中症予防のための情報提供とサーモメーター(葉っぱ)配布という介入を実施して日常生活を調査した結果、エアコン使用率、水分摂取量等に効果がみられた。葉っぱの使い勝手のアンケートにおいて温度計を併用するとの回答も多く、葉っぱにより暑さに気づき、温度計により確認する行動につながったと考えられる。高齢者自身が生活する温熱環境を知り、適切な暑熱回避行動に結びつけるためのさらなる工夫が望まれる。

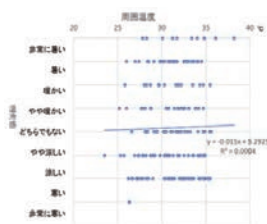


図6 周囲温度と温冷感申告

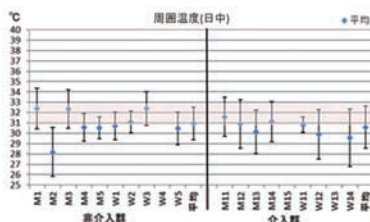


図7 日中の平均周囲温度

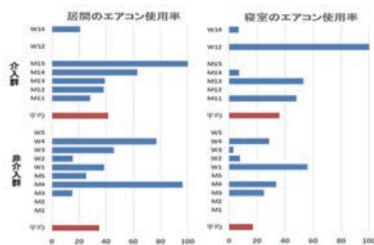


図8 居間と寝室のエアコン使用率

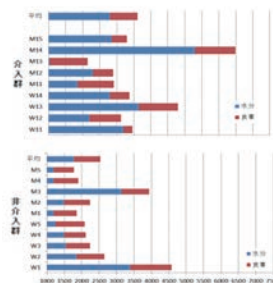


図9 一日の水分摂取量

参考文献

- 1) 奥野勇也・中田冬馬, 高齢者の熱中症対策に関する研究—意識調査と温熱環境・皮膚温測定—, 平成26年度卒業論文
- 2) 大畑良貴・柴田裕人・西浦康介, 夏季における大学生の生活習慣の実態, 平成27年度卒業論文

謝辞

本研究に被験者としてご協力頂いた高齢者の皆様、共同研究としてご指導頂いた奈良女子大学 磯田憲生先生、久保博子先生、武庫川女子大学 佐々尚美先生に御礼申し上げます。

綿を使ったものづくり ～家庭科の授業のための一試行～



竹中 千晶
Chiaki Takenaka

村田ゼミ

1. はじめに

子どもたちの、コミュニケーション能力の低下、規範意識の希薄さ、学習に対する受動的な態度が問題視されて久しく、奈良県教育委員会・中央教育審議会においても課題としてあげられている。小中学校の現場ではコミュニケーションが原因で、人間関係がうまく築けずトラブルに発展するというような事例が報告されている。¹⁾また、積極的に自分から発言したり、自ら疑問に思うことについて考えたりしないという子どもたちの学習に対する態度についても課題がある。そこで今回はものづくりを行うために使用する道具から作成することにした。2020年に改訂される学習指導要領の中に示されているアクティブ・ラーニングに通じるものとして「綿の栽培から作品制作」を取り入れたいと考えた。

2. 実践内容

2-1) 実践目的

来年度から家庭科教諭になる者として家庭科の授業に多くの工程を必要とし、地域に関係のある素材を教材としたものづくり教育を授業に取り入れる。そのことより私が今の子どもたちの課題であると感じる①コミュニケーション能力の低下②規範意識の希薄さ③学習に対する受動的な態度、これらの課題解決の糸口を見つけれられるのではないかと思い実践する。

2-2) 実践期間

2016年5月～2017年1月

2-3) 実践対象

ガールスカウト奈良県第52団
ブラウニー部門（小学1～3年生）5名
ジュニア部門（小学4～6年生）11名
シニア部門（中学1～3年生）6名
【シニア部門はコースター作りのみ参加】

2-4) 実践計画

- ・指導案の作成 全7回
- （種まき・綿について・大和高田市の綿の歴史について・糸紡ぎ・染め・織り・羊毛フェルト）
- ・授業
- ・アンケート調査及び聞き取り調査
- ・考察

3. 実践

3-1) 指導案（織り）

学習内容	指導上の留意点	評価
①綿の糸が何からできているかを知り、綿の糸の性質を知る。 ②綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ③綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ④綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ⑤綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ⑥綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ⑦綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ⑧綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ⑨綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ⑩綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。	・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。	・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。 ・綿の糸の性質を知るために綿の糸の性質を知る。

図-1 織りに関する指導案

種まき→観察→大和高田市の歴史調べ→収穫→作品制作の指導案を作成した。作成する際に、①子どもたちにどのように説明すればわかりやすいか、また②問題視している教育課題を解決する指導方法のこの2点を念頭に置き、授業に工夫を凝らした。

例えば、図-1の織りに関する授業であれば、織り機を使ったコースター作り(ものづくり)を取り入れ、子どもたちが相互的に協力する機会を作った。

3-2) 授業



コースター作り(11月)

5月に種まき、7月に綿の成長を観察、10月に綿の収穫と糸紡ぎ体験、11月に紡いだ糸を染め、コースター作りを行った。実践中にトラブルや困難なことが起こってもすぐに指導を行わず、子ども達の行動、会話を観察するように心がけた。

3-3) アンケート調査及び聞き取り調査

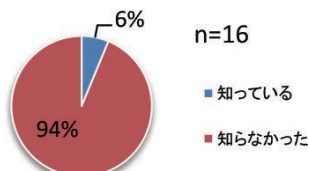


図-7 綿について知っていましたか?と結果

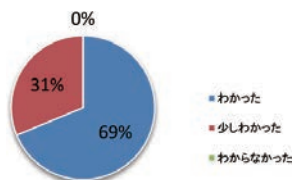


図-8 綿についてよくわかりましたか?という質問に対するアンケート結果

3-4) 考察

授業を行う前に、綿について知っているか答えた子どもはわずか6%であった。しかし、綿の栽培から作品制作を行った後に綿について質問すると、わからなかった子どもはいなかった。この授業で綿についての知識を生活の子どもたちに身に着けさせることが可能であるとわかった。また、7回目に行った羊毛フェルトでは、個人差はあるが低学年に自ら教えていたり、クラフトを行った後に出たゴミを捨てるという光景を目にすることが出来た。このことからコミュニケーション能力の低下、規範意識の希薄化、学習に対する受動的な態度といった子どもたちの課題を解決する一助になる教材として効果的であると感じた。この結果から来年度から家庭科教育に取り入れていきたい。

4. まとめ

- 種まきから作品制作までの体験をすることにより私たちの衣服布から素材、糸を理解することができる。
- アンケート結果からコースター作りにもものづくりのわくわく感をかんじることができたと回答があった。
- 様々な場面で助け合う、相談する様子が見られた。
- 今回は小学生での施行であったが、自分達で使用する道具の作成も含め、中学校家庭科への導入が可能であると考えた。

参考文献

1) www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/075/.../06/.../1294462_03.pdf

学生およびその家族におけるインテリアグリーンの利用実態について



田中 翠
Midori Tanaka

西山ゼミ

1. 背景と目的

今日、住宅空間および執務空間や商業空間に植物を取り入れることが多くなっている。植物によるリラックス効果や室内汚染物質除去効果など様々な視点から効果が期待され1)、人々の生活において重要な役割を果たしているとされる。これらのことから本論は一般家庭における室内緑化植物の設置行動と利用実態についての調査報告を目的とする。

2. 調査概要

(1) 現地調査

予備調査として、どの店舗にも置いてあり、一般の人々に広く知られているような代表的な植物を調べるため、実際に植物を扱う園芸店・雑貨店へ行き、目視で観察してメモを取り、観葉植物の図鑑を見ながらリストアップした。

(2) アンケート調査

調査対象は 畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科1、2、3、4年生およびその家族(168部配布、回収率43%)で、調査内容は属性、インテリアへの関心について、自宅に関する質問、自宅の室内緑化に対する質問である。

調査期間は2016年12月8日～19日の11日間である。

3. インテリアグリーンの分類

現地調査の結果と観葉植物図鑑を基に特徴や大きさをまとめ5種類に分類し、表を作成した(表1)。

4. インテリアグリーンの利用実態

(1) インテリア関心度と設置行動

表1 代表的なインテリアグリーンの大きさの分類

種類	植物名	観葉植物図鑑	高さ	幅	深さ	重さ
大	観葉植物	観葉植物図鑑	150cm以上	100cm以上	100cm以上	10kg以上
中	観葉植物	観葉植物図鑑	100cm以上	100cm以上	100cm以上	10kg以上
小	観葉植物	観葉植物図鑑	100cm以下	100cm以下	100cm以下	10kg以下
ミニ	観葉植物	観葉植物図鑑	100cm以下	100cm以下	100cm以下	10kg以下



図1 インテリアグリーンの例

※ 観葉植物図鑑: (1) 高さ (2) 幅 (3) 重さ (4) 深さ (5) 重さ (6) 高さ (7) 幅 (8) 重さ (9) 深さ (10) 重さ (11) 高さ (12) 幅 (13) 重さ (14) 深さ (15) 重さ (16) 高さ (17) 幅 (18) 重さ (19) 深さ (20) 重さ (21) 高さ (22) 幅 (23) 重さ (24) 深さ (25) 重さ (26) 高さ (27) 幅 (28) 重さ (29) 深さ (30) 重さ (31) 高さ (32) 幅 (33) 重さ (34) 深さ (35) 重さ (36) 高さ (37) 幅 (38) 重さ (39) 深さ (40) 重さ (41) 高さ (42) 幅 (43) 重さ (44) 深さ (45) 重さ (46) 高さ (47) 幅 (48) 重さ (49) 深さ (50) 重さ (51) 高さ (52) 幅 (53) 重さ (54) 深さ (55) 重さ (56) 高さ (57) 幅 (58) 重さ (59) 深さ (60) 重さ (61) 高さ (62) 幅 (63) 重さ (64) 深さ (65) 重さ (66) 高さ (67) 幅 (68) 重さ (69) 深さ (70) 重さ (71) 高さ (72) 幅 (73) 重さ (74) 深さ (75) 重さ (76) 高さ (77) 幅 (78) 重さ (79) 深さ (80) 重さ (81) 高さ (82) 幅 (83) 重さ (84) 深さ (85) 重さ (86) 高さ (87) 幅 (88) 重さ (89) 深さ (90) 重さ (91) 高さ (92) 幅 (93) 重さ (94) 深さ (95) 重さ (96) 高さ (97) 幅 (98) 重さ (99) 深さ (100) 重さ (101) 高さ (102) 幅 (103) 重さ (104) 深さ (105) 重さ (106) 高さ (107) 幅 (108) 重さ (109) 深さ (110) 重さ (111) 高さ (112) 幅 (113) 重さ (114) 深さ (115) 重さ (116) 高さ (117) 幅 (118) 重さ (119) 深さ (120) 重さ (121) 高さ (122) 幅 (123) 重さ (124) 深さ (125) 重さ (126) 高さ (127) 幅 (128) 重さ (129) 深さ (130) 重さ (131) 高さ (132) 幅 (133) 重さ (134) 深さ (135) 重さ (136) 高さ (137) 幅 (138) 重さ (139) 深さ (140) 重さ (141) 高さ (142) 幅 (143) 重さ (144) 深さ (145) 重さ (146) 高さ (147) 幅 (148) 重さ (149) 深さ (150) 重さ (151) 高さ (152) 幅 (153) 重さ (154) 深さ (155) 重さ (156) 高さ (157) 幅 (158) 重さ (159) 深さ (160) 重さ (161) 高さ (162) 幅 (163) 重さ (164) 深さ (165) 重さ (166) 高さ (167) 幅 (168) 重さ (169) 深さ (170) 重さ (171) 高さ (172) 幅 (173) 重さ (174) 深さ (175) 重さ (176) 高さ (177) 幅 (178) 重さ (179) 深さ (180) 重さ (181) 高さ (182) 幅 (183) 重さ (184) 深さ (185) 重さ (186) 高さ (187) 幅 (188) 重さ (189) 深さ (190) 重さ (191) 高さ (192) 幅 (193) 重さ (194) 深さ (195) 重さ (196) 高さ (197) 幅 (198) 重さ (199) 深さ (200) 重さ (201) 高さ (202) 幅 (203) 重さ (204) 深さ (205) 重さ (206) 高さ (207) 幅 (208) 重さ (209) 深さ (210) 重さ (211) 高さ (212) 幅 (213) 重さ (214) 深さ (215) 重さ (216) 高さ (217) 幅 (218) 重さ (219) 深さ (220) 重さ (221) 高さ (222) 幅 (223) 重さ (224) 深さ (225) 重さ (226) 高さ (227) 幅 (228) 重さ (229) 深さ (230) 重さ (231) 高さ (232) 幅 (233) 重さ (234) 深さ (235) 重さ (236) 高さ (237) 幅 (238) 重さ (239) 深さ (240) 重さ (241) 高さ (242) 幅 (243) 重さ (244) 深さ (245) 重さ (246) 高さ (247) 幅 (248) 重さ (249) 深さ (250) 重さ (251) 高さ (252) 幅 (253) 重さ (254) 深さ (255) 重さ (256) 高さ (257) 幅 (258) 重さ (259) 深さ (260) 重さ (261) 高さ (262) 幅 (263) 重さ (264) 深さ (265) 重さ (266) 高さ (267) 幅 (268) 重さ (269) 深さ (270) 重さ (271) 高さ (272) 幅 (273) 重さ (274) 深さ (275) 重さ (276) 高さ (277) 幅 (278) 重さ (279) 深さ (280) 重さ (281) 高さ (282) 幅 (283) 重さ (284) 深さ (285) 重さ (286) 高さ (287) 幅 (288) 重さ (289) 深さ (290) 重さ (291) 高さ (292) 幅 (293) 重さ (294) 深さ (295) 重さ (296) 高さ (297) 幅 (298) 重さ (299) 深さ (300) 重さ (301) 高さ (302) 幅 (303) 重さ (304) 深さ (305) 重さ (306) 高さ (307) 幅 (308) 重さ (309) 深さ (310) 重さ (311) 高さ (312) 幅 (313) 重さ (314) 深さ (315) 重さ (316) 高さ (317) 幅 (318) 重さ (319) 深さ (320) 重さ (321) 高さ (322) 幅 (323) 重さ (324) 深さ (325) 重さ (326) 高さ (327) 幅 (328) 重さ (329) 深さ (330) 重さ (331) 高さ (332) 幅 (333) 重さ (334) 深さ (335) 重さ (336) 高さ (337) 幅 (338) 重さ (339) 深さ (340) 重さ (341) 高さ (342) 幅 (343) 重さ (344) 深さ (345) 重さ (346) 高さ (347) 幅 (348) 重さ (349) 深さ (350) 重さ (351) 高さ (352) 幅 (353) 重さ (354) 深さ (355) 重さ (356) 高さ (357) 幅 (358) 重さ (359) 深さ (360) 重さ (361) 高さ (362) 幅 (363) 重さ (364) 深さ (365) 重さ (366) 高さ (367) 幅 (368) 重さ (369) 深さ (370) 重さ (371) 高さ (372) 幅 (373) 重さ (374) 深さ (375) 重さ (376) 高さ (377) 幅 (378) 重さ (379) 深さ (380) 重さ (381) 高さ (382) 幅 (383) 重さ (384) 深さ (385) 重さ (386) 高さ (387) 幅 (388) 重さ (389) 深さ (390) 重さ (391) 高さ (392) 幅 (393) 重さ (394) 深さ (395) 重さ (396) 高さ (397) 幅 (398) 重さ (399) 深さ (400) 重さ (401) 高さ (402) 幅 (403) 重さ (404) 深さ (405) 重さ (406) 高さ (407) 幅 (408) 重さ (409) 深さ (410) 重さ (411) 高さ (412) 幅 (413) 重さ (414) 深さ (415) 重さ (416) 高さ (417) 幅 (418) 重さ (419) 深さ (420) 重さ (421) 高さ (422) 幅 (423) 重さ (424) 深さ (425) 重さ (426) 高さ (427) 幅 (428) 重さ (429) 深さ (430) 重さ (431) 高さ (432) 幅 (433) 重さ (434) 深さ (435) 重さ (436) 高さ (437) 幅 (438) 重さ (439) 深さ (440) 重さ (441) 高さ (442) 幅 (443) 重さ (444) 深さ (445) 重さ (446) 高さ (447) 幅 (448) 重さ (449) 深さ (450) 重さ (451) 高さ (452) 幅 (453) 重さ (454) 深さ (455) 重さ (456) 高さ (457) 幅 (458) 重さ (459) 深さ (460) 重さ (461) 高さ (462) 幅 (463) 重さ (464) 深さ (465) 重さ (466) 高さ (467) 幅 (468) 重さ (469) 深さ (470) 重さ (471) 高さ (472) 幅 (473) 重さ (474) 深さ (475) 重さ (476) 高さ (477) 幅 (478) 重さ (479) 深さ (480) 重さ (481) 高さ (482) 幅 (483) 重さ (484) 深さ (485) 重さ (486) 高さ (487) 幅 (488) 重さ (489) 深さ (490) 重さ (491) 高さ (492) 幅 (493) 重さ (494) 深さ (495) 重さ (496) 高さ (497) 幅 (498) 重さ (499) 深さ (500) 重さ (501) 高さ (502) 幅 (503) 重さ (504) 深さ (505) 重さ (506) 高さ (507) 幅 (508) 重さ (509) 深さ (510) 重さ (511) 高さ (512) 幅 (513) 重さ (514) 深さ (515) 重さ (516) 高さ (517) 幅 (518) 重さ (519) 深さ (520) 重さ (521) 高さ (522) 幅 (523) 重さ (524) 深さ (525) 重さ (526) 高さ (527) 幅 (528) 重さ (529) 深さ (530) 重さ (531) 高さ (532) 幅 (533) 重さ (534) 深さ (535) 重さ (536) 高さ (537) 幅 (538) 重さ (539) 深さ (540) 重さ (541) 高さ (542) 幅 (543) 重さ (544) 深さ (545) 重さ (546) 高さ (547) 幅 (548) 重さ (549) 深さ (550) 重さ (551) 高さ (552) 幅 (553) 重さ (554) 深さ (555) 重さ (556) 高さ (557) 幅 (558) 重さ (559) 深さ (560) 重さ (561) 高さ (562) 幅 (563) 重さ (564) 深さ (565) 重さ (566) 高さ (567) 幅 (568) 重さ (569) 深さ (570) 重さ (571) 高さ (572) 幅 (573) 重さ (574) 深さ (575) 重さ (576) 高さ (577) 幅 (578) 重さ (579) 深さ (580) 重さ (581) 高さ (582) 幅 (583) 重さ (584) 深さ (585) 重さ (586) 高さ (587) 幅 (588) 重さ (589) 深さ (590) 重さ (591) 高さ (592) 幅 (593) 重さ (594) 深さ (595) 重さ (596) 高さ (597) 幅 (598) 重さ (599) 深さ (600) 重さ (601) 高さ (602) 幅 (603) 重さ (604) 深さ (605) 重さ (606) 高さ (607) 幅 (608) 重さ (609) 深さ (610) 重さ (611) 高さ (612) 幅 (613) 重さ (614) 深さ (615) 重さ (616) 高さ (617) 幅 (618) 重さ (619) 深さ (620) 重さ (621) 高さ (622) 幅 (623) 重さ (624) 深さ (625) 重さ (626) 高さ (627) 幅 (628) 重さ (629) 深さ (630) 重さ (631) 高さ (632) 幅 (633) 重さ (634) 深さ (635) 重さ (636) 高さ (637) 幅 (638) 重さ (639) 深さ (640) 重さ (641) 高さ (642) 幅 (643) 重さ (644) 深さ (645) 重さ (646) 高さ (647) 幅 (648) 重さ (649) 深さ (650) 重さ (651) 高さ (652) 幅 (653) 重さ (654) 深さ (655) 重さ (656) 高さ (657) 幅 (658) 重さ (659) 深さ (660) 重さ (661) 高さ (662) 幅 (663) 重さ (664) 深さ (665) 重さ (666) 高さ (667) 幅 (668) 重さ (669) 深さ (670) 重さ (671) 高さ (672) 幅 (673) 重さ (674) 深さ (675) 重さ (676) 高さ (677) 幅 (678) 重さ (679) 深さ (680) 重さ (681) 高さ (682) 幅 (683) 重さ (684) 深さ (685) 重さ (686) 高さ (687) 幅 (688) 重さ (689) 深さ (690) 重さ (691) 高さ (692) 幅 (693) 重さ (694) 深さ (695) 重さ (696) 高さ (697) 幅 (698) 重さ (699) 深さ (700) 重さ (701) 高さ (702) 幅 (703) 重さ (704) 深さ (705) 重さ (706) 高さ (707) 幅 (708) 重さ (709) 深さ (710) 重さ (711) 高さ (712) 幅 (713) 重さ (714) 深さ (715) 重さ (716) 高さ (717) 幅 (718) 重さ (719) 深さ (720) 重さ (721) 高さ (722) 幅 (723) 重さ (724) 深さ (725) 重さ (726) 高さ (727) 幅 (728) 重さ (729) 深さ (730) 重さ (731) 高さ (732) 幅 (733) 重さ (734) 深さ (735) 重さ (736) 高さ (737) 幅 (738) 重さ (739) 深さ (740) 重さ (741) 高さ (742) 幅 (743) 重さ (744) 深さ (745) 重さ (746) 高さ (747) 幅 (748) 重さ (749) 深さ (750) 重さ (751) 高さ (752) 幅 (753) 重さ (754) 深さ (755) 重さ (756) 高さ (757) 幅 (758) 重さ (759) 深さ (760) 重さ (761) 高さ (762) 幅 (763) 重さ (764) 深さ (765) 重さ (766) 高さ (767) 幅 (768) 重さ (769) 深さ (770) 重さ (771) 高さ (772) 幅 (773) 重さ (774) 深さ (775) 重さ (776) 高さ (777) 幅 (778) 重さ (779) 深さ (780) 重さ (781) 高さ (782) 幅 (783) 重さ (784) 深さ (785) 重さ (786) 高さ (787) 幅 (788) 重さ (789) 深さ (790) 重さ (791) 高さ (792) 幅 (793) 重さ (794) 深さ (795) 重さ (796) 高さ (797) 幅 (798) 重さ (799) 深さ (800) 重さ (801) 高さ (802) 幅 (803) 重さ (804) 深さ (805) 重さ (806) 高さ (807) 幅 (808) 重さ (809) 深さ (810) 重さ (811) 高さ (812) 幅 (813) 重さ (814) 深さ (815) 重さ (816) 高さ (817) 幅 (818) 重さ (819) 深さ (820) 重さ (821) 高さ (822) 幅 (823) 重さ (824) 深さ (825) 重さ (826) 高さ (827) 幅 (828) 重さ (829) 深さ (830) 重さ (831) 高さ (832) 幅 (833) 重さ (834) 深さ (835) 重さ (836) 高さ (837) 幅 (838) 重さ (839) 深さ (840) 重さ (841) 高さ (842) 幅 (843) 重さ (844) 深さ (845) 重さ (846) 高さ (847) 幅 (848) 重さ (849) 深さ (850) 重さ (851) 高さ (852) 幅 (853) 重さ (854) 深さ (855) 重さ (856) 高さ (857) 幅 (858) 重さ (859) 深さ (860) 重さ (861) 高さ (862) 幅 (863) 重さ (864) 深さ (865) 重さ (866) 高さ (867) 幅 (868) 重さ (869) 深さ (870) 重さ (871) 高さ (872) 幅 (873) 重さ (874) 深さ (875) 重さ (876) 高さ (877) 幅 (878) 重さ (879) 深さ (880) 重さ (881) 高さ (882) 幅 (883) 重さ (884) 深さ (885) 重さ (886) 高さ (887) 幅 (888) 重さ (889) 深さ (890) 重さ (891) 高さ (892) 幅 (893) 重さ (894) 深さ (895) 重さ (896) 高さ (897) 幅 (898) 重さ (899) 深さ (900) 重さ (901) 高さ (902) 幅 (903) 重さ (904) 深さ (905) 重さ (906) 高さ (907) 幅 (908) 重さ (909) 深さ (910) 重さ (911) 高さ (912) 幅 (913) 重さ (914) 深さ (915) 重さ (916) 高さ (917) 幅 (918) 重さ (919) 深さ (920) 重さ (921) 高さ (922) 幅 (923) 重さ (924) 深さ (925) 重さ (926) 高さ (927) 幅 (928) 重さ (929) 深さ (930) 重さ (931) 高さ (932) 幅 (933) 重さ (934) 深さ (935) 重さ (936) 高さ (937) 幅 (938) 重さ (939) 深さ (940) 重さ (941) 高さ (942) 幅 (943) 重さ (944) 深さ (945) 重さ (946) 高さ (947) 幅 (948) 重さ (949) 深さ (950) 重さ (951) 高さ (952) 幅 (953) 重さ (954) 深さ (955) 重さ (956) 高さ (957) 幅 (958) 重さ (959) 深さ (960) 重さ (961) 高さ (962) 幅 (963) 重さ (964) 深さ (965) 重さ (966) 高さ (967) 幅 (968) 重さ (969) 深さ (970) 重さ (971) 高さ (972) 幅 (973) 重さ (974) 深さ (975) 重さ (976) 高さ (977) 幅 (978) 重さ (979) 深さ (980) 重さ (981) 高さ (982) 幅 (983) 重さ (984) 深さ (985) 重さ (986) 高さ (987) 幅 (988) 重さ (989) 深さ (990) 重さ (991) 高さ (992) 幅 (993) 重さ (994) 深さ (995) 重さ (996) 高さ (997) 幅 (998) 重さ (999) 深さ (1000) 重さ (1001) 高さ (1002) 幅 (1003) 重さ (1004) 深さ (1005) 重さ (1006) 高さ (1007) 幅 (1008) 重さ (1009) 深さ (1010) 重さ (1011) 高さ (1012) 幅 (1013) 重さ (1014) 深さ (1015) 重さ (1016) 高さ (1017) 幅 (1018) 重さ (1019) 深さ (1020) 重さ (1021) 高さ (1022) 幅 (1023) 重さ (1024) 深さ (1025) 重さ (1026) 高さ (1027) 幅 (1028) 重さ (1029) 深さ (1030) 重さ (1031) 高さ (1032) 幅 (1033) 重さ (1034) 深さ (1035) 重さ (1036) 高さ (1037) 幅 (1038) 重さ (1039) 深さ (1040) 重さ (1041) 高さ (1042) 幅 (1043) 重さ (1044) 深さ (1045) 重さ (1046) 高さ (1047) 幅 (1048) 重さ (1049) 深さ (1050) 重さ (1051) 高さ (1052) 幅 (1053) 重さ (1054) 深さ (1055) 重さ (1056) 高さ (1057) 幅 (1058) 重さ (1059) 深さ (1060) 重さ (1061) 高さ (1062) 幅 (1063) 重さ (1064) 深さ (1065) 重さ (1066) 高さ (1067) 幅 (1068) 重さ (1069) 深さ (1070) 重さ (1071) 高さ (1072) 幅 (1073) 重さ (1074) 深さ (1075) 重さ (1076) 高さ (1077) 幅 (1078) 重さ (1079) 深さ (1080) 重さ (1081) 高さ (1082) 幅 (1083) 重さ (1084) 深さ (1085) 重さ (1086) 高さ (1087) 幅 (1088) 重さ (1089) 深さ (1090) 重さ (1091) 高さ (1092) 幅 (1093) 重さ (1094) 深さ (1095) 重さ (1096) 高さ (1097) 幅 (1098) 重さ (1099) 深さ (1100) 重さ (1101) 高さ (1102) 幅 (1103) 重さ (1104) 深さ (1105) 重さ (1106) 高さ (1107) 幅 (1108) 重さ (1109) 深さ (1110) 重さ (1111) 高さ (1112) 幅 (1113) 重さ (1114) 深さ (1115) 重さ (1116) 高さ (1117) 幅 (1118) 重さ (1119) 深さ (1120) 重さ (1121) 高さ (1122) 幅 (1123) 重さ (1124) 深さ (1125) 重さ (1126) 高さ (1127) 幅 (1128) 重さ (1129) 深さ (1130) 重さ (1131) 高さ (1132) 幅 (1133) 重さ (1134) 深さ (1135) 重さ (1136) 高さ (1137) 幅 (1138) 重さ (1139) 深さ (1140) 重さ (1141) 高さ (1142) 幅 (1143) 重さ (1144) 深さ (1145) 重さ (1146) 高さ (1147) 幅 (1148) 重さ (1149) 深さ (1150) 重さ (1151) 高さ (1152) 幅 (1153) 重さ (1154) 深さ (1155) 重さ (1156) 高さ (1157) 幅 (1158) 重さ (1159) 深さ (1160) 重さ (1161) 高さ (1162) 幅 (1163) 重さ (1164) 深さ (1165) 重さ (1166) 高さ (1167) 幅 (1168) 重さ (1169) 深さ (1170) 重さ (1171) 高さ (1172) 幅 (1173) 重さ (1174) 深さ (1175) 重さ (1176) 高さ (1177) 幅 (1178) 重さ (1179) 深さ (1180) 重さ (1181) 高さ (1182) 幅 (1183) 重さ (1184) 深さ (1185) 重さ (1186) 高さ (1187) 幅 (1188) 重さ (1189) 深さ (1190) 重さ (1191) 高さ (1192) 幅 (1193) 重さ (1194) 深さ (1195) 重さ (1196) 高さ (1197) 幅 (1198) 重さ (1199) 深さ (1200) 重さ (1201) 高さ (1202) 幅 (1203) 重さ (1204) 深さ (1205) 重さ (1206) 高さ (1207) 幅 (1208) 重さ (1209) 深さ (1210) 重さ (1211) 高さ (1212) 幅 (1213) 重さ (1214) 深さ (1215) 重さ (1216) 高さ (1217) 幅 (1218) 重さ (1219) 深さ (1220) 重さ (1221) 高さ (1222) 幅 (1223) 重さ (1224) 深さ (1225) 重さ (1226) 高さ (1227) 幅 (1228) 重さ (1229) 深さ (1230) 重さ (1231) 高さ (1232) 幅 (1233) 重さ (1234) 深さ (1235) 重さ (1236) 高さ (1237) 幅 (1238) 重さ (1239) 深さ (1240) 重さ (1241) 高さ (1242) 幅 (1243) 重さ (1244) 深さ (1245) 重さ (1246) 高さ (1247) 幅 (1248) 重さ (1249) 深さ (1250) 重さ (1251) 高さ (1252) 幅 (1253) 重さ (1254) 深さ (1255) 重さ (1256) 高さ (1257) 幅 (1258) 重さ (1259) 深さ (1260) 重さ (1261) 高さ (1262) 幅 (1263) 重さ (1264) 深さ (1265) 重さ (1266) 高さ (1267) 幅 (1268) 重さ (1269) 深さ (1270) 重さ (1271) 高さ (1272) 幅 (1273) 重さ (1274) 深さ (1275) 重さ (1276) 高さ (1277) 幅 (1278) 重さ (1279) 深さ (1280) 重さ (1281) 高さ (1282) 幅 (1283) 重さ (1284) 深さ (1285) 重さ (1286) 高さ (1287) 幅 (1288) 重さ (1289) 深さ (1290) 重さ (1291) 高さ (1292) 幅 (1293) 重さ (1294) 深さ (1295) 重さ (1296) 高さ (1297) 幅 (1298) 重さ (1299) 深さ (1300) 重さ (1301) 高さ (1302) 幅 (1303) 重さ (1304) 深さ (1305) 重さ (1306) 高さ (1307) 幅 (1308) 重さ (1309) 深さ (1310) 重さ (1311) 高さ (1312) 幅 (1313) 重さ (1314) 深さ (1315) 重さ (1316) 高さ (1317) 幅 (1318) 重さ (1319) 深さ (1320) 重さ (1321) 高さ (1322) 幅 (1323) 重さ (1324) 深さ (1325) 重さ (1326) 高さ (1327) 幅 (1328) 重さ (1329) 深さ (1330) 重さ (1331) 高さ (1332) 幅 (1333) 重さ (1334) 深さ (1335) 重さ (1336) 高さ (1337) 幅 (1338) 重さ (1339) 深さ (1340) 重さ (1341) 高さ (1342) 幅 (1343) 重さ (1344) 深さ (1345) 重さ (1346) 高さ (1347) 幅 (1348) 重さ (1349) 深さ (1350) 重さ (1351) 高さ (1352) 幅 (1353) 重さ (1354) 深さ (1355) 重さ (1356) 高さ (1357) 幅 (1358) 重さ (1359) 深さ (1360) 重さ (1361) 高さ (1362) 幅 (1363) 重さ (1364) 深さ (1365) 重さ (1366) 高さ (1367) 幅 (1368) 重さ (1369) 深さ (1370) 重さ (1371) 高さ (1372) 幅 (1373) 重さ (1374) 深さ (1375) 重さ (1376) 高さ (1377) 幅 (1378) 重さ (1379) 深さ (1380) 重さ (1381) 高さ (1382) 幅 (1383) 重さ (1384) 深さ (1385) 重さ (1386) 高さ (1387) 幅 (1388) 重さ (1389) 深さ (1390) 重さ (1391) 高さ (1392) 幅 (1393) 重さ (1394) 深さ (1395) 重さ (1396) 高さ (1397) 幅 (1398) 重さ (1399) 深さ (1400) 重さ (1401) 高さ (1402) 幅 (1403) 重さ (1404) 深さ (1405) 重さ (1406) 高さ (1407) 幅 (1408) 重さ (140

が45%と最も多く次に学生が30%で、そのほとんどが自室に置いていることが分かった(図4)。自分で置いた場合、その購入場所は「園芸店」45%で最も多く、その他「インテリアショップ」14%、「雑貨店」16%は少なかった(図5)。

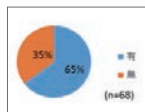


図2 植物の有無の割合

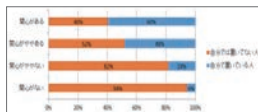


図3 インテリアグリーンの設置と関心度の関係

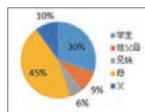


図4 統柄別設置行動の割合

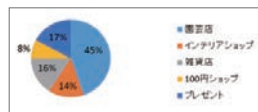


図5 インテリアグリーンの購入場所

インテリアへの関心が「ある」のうち自宅のインテリアへの関心が「ある」は親世代で53%、子世代では48%であった。親世代に比べると子世代では自宅のインテリアへの関心がやや少ない傾向にあった($p < 0.01$) (図6、図7)。

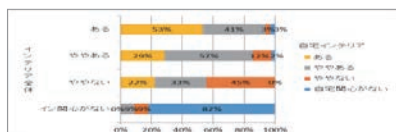


図6 親世代におけるインテリア関心と自宅インテリア関心の関係

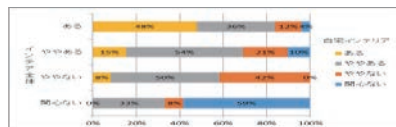


図7 子世代におけるインテリア関心と自宅インテリア関心の関係

5. 家庭における室内緑化の実態

植物設置場所^{注1)}については、通過空間、水廻り空間、居住空間の3つにまとめ、その統合指標^{注2)}を用いた。空間別に設置されている植物の数を見ると、居住空間には61件置かれていた。ついで通過空間に34件、水廻り空間に24件であった(図8)。自宅の中で最もくつろぎを求める居住空間の目の触れやすい所に置く世帯が多いことから、植物のもつ癒

し効果を期待して置いている人が多いのではないかと考えられる。

小型種のみ(小型種・造花類)を各室設置数の上位5位で特徴のあった5室を設置個数による置き方の違いをみると、「玄関」「トイレ」「ダイニング」「リビング」のパブリック空間である4室では単数置きの方が多かったのに対し、「夫婦寝室・子供室」のプライベート空間では複数置きの方が多かった(図9)。

表-1の分類表を基に命あるもの・ないもの(造花類)に分け、更に種類別に植物の設置数をみたところ、「小型種」が48件と命あるものの中で約半数を占めていた(図10)。更に空間別に植物の種類をみると、全体的にはどの空間にも「造花類」が置かれている一方、「大型種」の置かれている世帯は少なかった。「大型種」「中型種」は玄関に6件と10件、「小型種」は居住空間に26件と多く置かれる傾向があった(図11)。

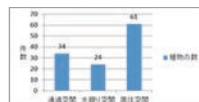


図8 空間別にみる植物の設置数

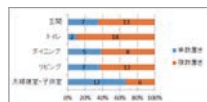


図9 各室における小型種の設置個数

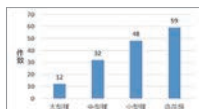


図10 種類別にみる植物の設置数

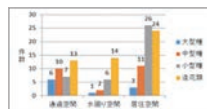


図11 空間別にみる植物の設置種類

6. まとめ

半数以上の家庭にインテリアグリーンが置かれており、設置行動には「母親」、次いで「学生」が関わっていた。自分で置いた人はインテリア・自宅インテリアともに関心が高かった。購入場所では「園芸店」が最も多かった。インテリアグリーンは居住空間に最も多く置かれており、命ある植物を置く傾向がみられた。

注1) 植物設置場所: 「玄関」「廊下」「洗面」「トイレ」「台所」「ダイニング」「リビング」「夫婦寝室・子供室」

注2) 統合指標: 「玄関」「廊下」「通過空間」「洗面」「トイレ」「水廻り空間」「LDK」「夫婦寝室・子供室」居住空間
参考文献: 1) 岩崎寛・井上紗代・山本聡(2006) インテリア雑貨としての観葉植物の生育特性に関する研究

地域活性化イベントの継続的な実施に関する研究 ～枚方宿くらわんか五六市・やどかり市を事例として～



野田 眞之介
Shinnosuke Noda

清水ゼミ

1. 研究の背景と目的

長年にわたって、「商店街」という存在は、地域にととの顔であり、地域活性化の鍵を担ってきた。しかし、近年、地域住民の暮らしを支える商店街の多くは衰退傾向にあり、商店街の魅力の一つであるにぎわいが失われつつある。こうした状況を打開するために、地域活性化事業が全国各地で模索されている。

特に、地域活性化イベントは、取り掛かりやすく、当日の集客力も見込みやすいため、各地で取り組まれている。一方で、一過性のにぎやかに終わる事例も少なくなく、経済効果を発揮する前に終了してしまうことも多い。

本研究では、地域活性化イベントを通じ、参加者及び商店主への調査を行うことで、下記の3点について明らかにする。①継続的な事業運営の特徴を明らかにする②地域活性化イベントの継続的な実施の検討をする③二つの事例を分析し、改善策を検討する。

2. 調査方法

調査方法については、下記の通りである。

- 1) 文献調査で全国の現状把握
- 2) 事例1：枚方宿くらわんか五六市(以下：五六市)ヒアリング・アンケート調査を実施

表1 五六市調査概要一覧

	参加者アンケート	商店主アンケート
調査対象	枚方宿くらわんか五六市	
調査日	2016年12月	
調査場所	枚方市駅から枚方公園駅の東海道沿い	
調査方法	直接配布、直接回収	各商店
有効回答数	100票	32票

- 3) 田原本町やどかり市(以下：やどかり市)、アンケート調査を実施

表2 やどかり市調査概要一覧

	参加者アンケート	商店主アンケート
調査対象	やどかり市	
調査日	2016年4月	2016年4月
	2016年11月	2016年11月
調査場所	田原本町駅前周辺	
調査方法	直接配布、直接回収	各商店
有効回答数	100票	16票
		32票

3. 枚方宿くらわんか五六市について

五六市は、休日の商店の軒先や駐車場を使って開催する青空市の草分けで、個性的な雑貨や手作りのパンの店などで賑わっているイベントである。

表3 五六市概要

	五六市
開催都市	大阪府枚方市
実施場所	京阪電鉄枚方市駅から枚方公園駅に至る街道沿い
期間	毎月第二日曜日
継続期間	10年目
既存店舗数	63店舗
来街者数	7500人
会議形式	役員会議

4. やどかり市について

やどかり市は、近鉄田原本駅と西田原本駅の駅前広場南側に位置する、田原本町の中心市街地で、平成24年度より活性化を目的として開催されているイベントである。

表4 やどかり市概要

	やどかり市
開催都市	奈良県田原本町
実施場所	中心市街地の近鉄田原本町駅と西田原本町の駅前広場南側
期間	年二回
継続期間	3年目
既存店舗数	40店舗前後
来街者数	5500人
会議形式	ワークショップ会議

5. 今後の地域活性化イベントのあり方

五六市、やどかり市双方の秀逸点及び問題点を、地域特有と共通に分類し、互いの秀逸点で改善出来るのか検討した。

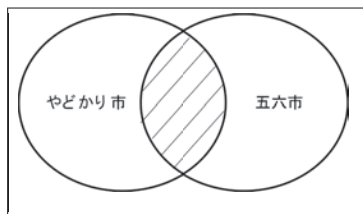


図1-5 ソーン分け

表5 秀逸点

双方の秀逸点
町内や市内など周辺地域住民に目を通しやすくなっているため、紙媒体のものを配ることは効果的な手段
継続することにより町外や市外の来訪者の数客も月々増加傾向も増加している
宣伝を行うことにより様々な効果を得ることができる
五六市の秀逸点
①SNSを使った宣伝を行い、新顧客を獲得している商店も多くある
②人の流れの導線を工夫し、人の導線を作ることができた
③10年間継続している
やどかり市の秀逸点
①人を集めることに一店独逸に対する意識が向上している
②個人ではなく町全体のことを考えイベントに協力している
③商店主にイベントの認知度が向上している
④ワークショップを実施するなど、会議を地域住民全体で行っている

表6 問題点

双方の問題点
★MAPや案内のわりにくさ
五六市の問題点
▲役員以外の一般店主のイベントに対する参加意識が低い
▲各商店にイベントの周知を図り、何らかの取り組みを行ってもらう工夫が必要
▲来街頻度は増加していない
▲会議を役員だけが行っている
やどかり市の問題点
●メイン通り以外にも人の導線ができるような工夫を考えていく必要がある
★午後からの集客が午前と比べ少ない
●他地域からの集客を見込むことや町の魅力を伝えるツールとしてSNSを利用したイベントの宣伝は必要
●店舗数が少ない

五六市の秀逸点を○、やどかり市の秀逸点を△とすると、やどかり市の問題点を五六市の秀逸点を見習うことで改善できるものを●、五六市の問題点をやどかり市の秀逸点で改善できるものを▲とした。また、どちらの秀逸点でも改善できないものを★とする。例えば、やどかり市の「メイン通り以外にも人の導線ができるような工夫を考えていく必要がある」という問題点は、五六

市でもイベント開催当初問題としてあげられていた。しかし、人気店の配置などを工夫することでメイン通り以外への集客に成功している。こうした事例を見習いやどかり市でも実施することで、改善がみこまれる。また、やどかり市は実施年月の浅いイベントであるが、地域住民を積極的に参加させたワークショップ形式での組織作りが功を奏し、地域全体のモチベーションが高いことが明らかとなった。五六市が実施する役員だけの会議では、一般店主の意識の低下などがみられたことからワークショップなど様々な立場の人々が関われる組織作りが重要であるといえる。

6. まとめ

本研究からは、類似したイベントを行う2事例を比較分析することで、会議形式や運営方法の違いによって事業効果が異なることを明らかとした。さらに、秀逸点で問題点をカバーすると大半の問題点は解消できることがわかった。一方で、2事例共に抱える問題点や、片方の事例にしか見られなかった課題については、解決策を導き出せなかった。今後は、さらなる成功事例の調査研究を行うことで、汎用性の高い地域活性化イベントのあり方を検討したい。

参考文献

1) 中小企業庁：平成27年度 商店街実態調査報告書、中小企業庁、2016.7

2) 清水裕子 中山徹：商店街活性化イベントの効果に関する研究～あるくん奈良まちなかバルを事例として～、平成25年度日本建築学会近畿支部研究発表会

成長段階における自室のしつらえの変化について



原田 美波
Minami Harada

西山ゼミ

1. 研究の背景と目的

近年、日本人のインテリアへの関心が高まっているのに対し、インテリアの教育などがなされていない現状がある。インテリアの教育に向け、現在の子どものインテリアの関心や子ども部屋の実態の把握が必要とされている¹⁾。

本論では、小学生期と大学生期の自室にあるインテリアエレメント、インテリアへの関心や自室の満足度について整理し、成長段階における自室の位置づけ及びしつらえの変化を把握することを目的とする。

2. 調査方法

調査1：インテリアエレメントについて

畿央大学人間環境デザイン学科の1～4回生を対象にアンケート調査を行った。調査内容は、回答者の属性、小学生期と大学生期の自室の所有状況、インテリアの関心度、自室の満足度、家族以外の人を招く頻度、所有インテリアエレメント、お気に入りのもの、自慢したいものである。調査期間は2016年11月1日、4日、9日の計3日間である。

調査2：位置づけとしつらえについて

畿央大学人間環境デザイン学科の1～4回生を対象にアンケート調査を行った。調査内容は、回答者の属性、小学生期と大学生期の家の中での居場所、悲しい時、腹が立った時に閉じこもる場所^{注1,2)}、自室の平面図、自室の中の居場所、自室の中の悲しい時、腹が立った時に閉じこもる場所である。調査期間は、2016年12月1日、8日、9日、13日の計4日間である。

3. インテリアエレメントについて

3-1 小学生期と大学生期の自室の所有インテリアエレメント数の変化

家具数では、小学生期、大学生期ともに椅子、ベッド、デスクが多かった。また大学生期になると洋服筆筒、クロゼット、整理筆筒、ラックなどの収納系家具の割合が全体的に増加した(図1)。インテリアテキスタイル数では、カーテンが小学生74%、大学生期81%と最も多く使用され、大きな変化はなかった(図2)。インテリアアクセサリ数では、機能性有り・無しの小物雑貨は、小学生期、大学生期ともに多かった。また、大学生期になると、絵画類22%や造花類18%の割合が増加した(図3)。

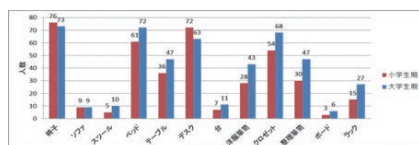


図1 小学生期と大学生期の所有家具の種類と数(MA)

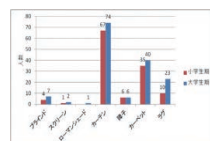


図2 小学生期と大学生期の所有インテリアテキスタイルの種類と数(MA)

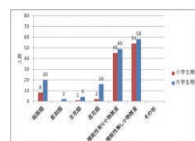


図3 小学生期と大学生期の所有インテリアアクセサリの種類と数(MA)

3-2 大学生期の部屋の使用状況と自室の満足度の関連性

部屋の使用人数、家族以外の人を招く頻度が自室の満足度と有意($p < 0.01$)に関連していた。

部屋の 使用人数と自室の満足度では、1人部屋は満足が21%、やや満足が50%で合計71%であり、1人部屋と満足には強い関連があった(図4)。

家族以外の人を招く頻度と自室の満足度では、月2～3回は満足が44%、ほとんどないが満足が20%、全くないが満足が12%であり、家族以外の人を招く頻度が低い方が満足と強い関連があった。また、月2～3回、ほとんどない、全くないは不満とも関連があった(図5)。

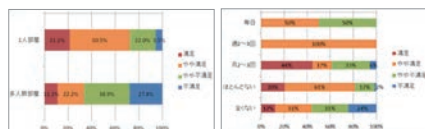


図4 自室の満足度と部屋の使用人数の関連性(p<0.01)



図5 家族以外の人を招く頻度と自室の満足度の関連性

4. 位置づけとしつらえについて

4-1 小学生期と大学生期の家の中で悲しい時、腹が立った時に閉じこもる場所の変化

悲しい時、腹が立った時に閉じこもる場所は、小学生期59人(75%)、大学生期71人(89%)が自室としており、今回の調査対象者の多くの自室が本来の意味での『子ども部屋』としての機能を果たしていた(図6)。また、悲しい時、腹が立った時に閉じこもる場所が自室であった小学生期59人(75%)と大学生期71人(89%)について、自室の中で悲しい時、腹が立った時に閉じこもる場所は、ベッドが小学生期58%、大学生期75%とどちらも最も多かった(図7)。ベッドは就寝だけでなく、自室が本来の意味での『子ども部屋』となる上

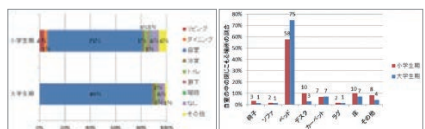


図6 小学生期と大学生期の家の中で悲しい時、腹が立った時に閉じこもる場所の変化 (n=79)

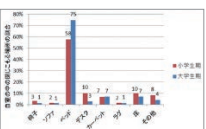


図7 小学生期と大学生期の自室の中で悲しい時、腹が立った時に閉じこもる場所の変化

で、重要なインテリアエレメントであった。

4-2 小学生期と大学生期の自室のしつらえの変化について

小学生期から大学生期になるまでに、自室そのものの変化がなかった学生は49人(62%)と過半数を占めていた(図8)。また、自室そのものの変化がない学生49人(62%)のうち、ベッドやデスクのレイアウトが変化した学生は26人(53%)であった(図9)。調査1により大学生期になると、収納系家具等が増加する傾向が把握され、同じ自室であってもベッドやデスクのレイアウトが変化したことが推測される。

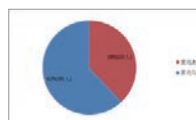


図8 自室が変化した割合 (n=79)

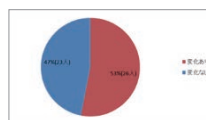


図9 自室の変化がなく、しつらえが変化した割合 (n=49)

5. まとめ

今回の調査対象者の自室に置かれるインテリアエレメントの種類は、小学生期も大学生期も椅子、カーテン、デスク、ベッドが多く、大学生期になると特に収納系家具が増加していた。また、大学生期の部屋の使用人数と自室の満足度では、1人部屋は満足との関連が強く、家族以外の人を招く頻度と自室の満足度では、招く頻度が低い方が満足と強い関連があった。また悲しい時、腹が立った時に閉じこもる場所は、小学生期も大学生期も多くの自室が本来の意味での『子ども部屋』としての機能を果たしていた。その中でもベッドは、就寝以外の居場所や本来の『子ども部屋』となる重要なインテリアエレメントであった。

参考文献

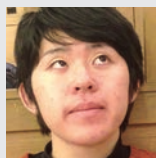
1) 小原二郎・加藤力・安藤忠雄編:インテリアの計画と設計,p.8 - p.13,2002

2) 北浦かほる:世界の子ども部屋,井上書院,2014

注1) 子どもが家の中で悲しい時、腹が立った時に閉じこもる場所であることが本来の子ども部屋の役割とされている²⁾ことから、これら2つの場所を調査した。

注2) 本研究では、注1で示した本来の子ども部屋を『子ども部屋』と称する。

ソフト事業を核とした持続可能な商店街活性化に関する研究 ～御所駅前商店街を事例として～



平井 直大
Naohiro Hirai

清水ゼミ

1. 背景と目的

近年、我が国では商店街の衰退が著しい。商店街に対する施策として、2009年8月1日、「商店街の活性化のための地域住民の需要に応じた事業活動の促進に関する法律」（略称：地域商店街活性化法）が施行された。この法案により、商店街が地域コミュニティの担い手となることが図られ、小規模で地元に着した商店街「近隣型商店街」の必要性が問われている¹⁾。

大規模な商店街は近年、活気を取り戻し、集客が増えている。一方で、多くの小規模な商店街では、シャッター街が増加している²⁾。商店街活性化事業は、大きくハード事業とソフト事業に分けられる。ハード事業は、大規模の商店街において、ある程度の集客効果が報告されているが、小規模の商店街では効果が見られないケースが多い。一方、ソフト事業は小規模の商店街でも顧客の定着や比較的低コストで実施できるなどの特徴により、事業の効果や継続が見込まれやすい。

本研究は、御所駅前の新地商店街を調査対象とし、①商店街活性化事業が行われている地域での成功事例の把握、②一過性の事業で終わらせない継続できるソフト事業の仕組みづくり、の2点を明らかにする。

2. 既往研究と先進事例

既往研究には、地域に合った再生策を「4つの手法」に分類した黒川³⁾の研究などがある。先進事例として、「生駒駅前商店街」を取り上げ、近隣型商店街における取り組みの参考と

する。

3. 研究方法

- ・文献調査にて全国の商店街の実態と事例を把握した。
- ・先進事例として生駒駅前商店街を取り上げ、文献及びヒアリング調査によって実態を把握した。
- ・具体事例として御所駅前の新地商店街を取り上げ、商工会と店主にヒアリング調査を実施し、現状を把握した。
- ・新地商店街のソフト事業である新地魚市の来客者にアンケート調査を実施した。さらに、畿央大学が運営しているコミュニティカフェの参加者にアンケート調査を実施し、認知度や利用状況を把握した。

4. 論文全体の構成

本論文の構成は、図1の通りである。

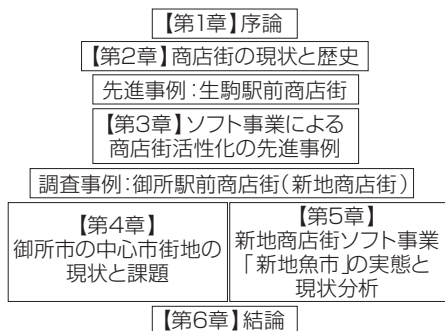


図1 論文構成のフローチャート図

5. 先進事例：生駒駅前商店街のソフト事業による商店街活性化

先行研究やヒアリング調査により、生駒駅前商店街はハード事業よりもソフト事業に力を

入れていることがわかった。ソフト事業を地元商店街が主体となって行い、サポートする形で行政や商工会議所が介入するといった、官民一体の組織体系が確立していることが功を奏していることが明らかとなった。さらに、その形で行えるイベントの一つとして、まちゼミがあった。まちゼミは全国的にも効果の高いソフト事業として名高いが、生駒市でも円滑な組織運営を保つ事業の一つであることがわかった。

6. 研究対象：御所駅前商店街ソフト事業の実施状況

御所駅前商店街では、現在5事業が実施されている。商店街の衰退が著しいことから、ハード事業に力を入れることができず、ソフト事業で活性化を試みている。

7. 調査及び分析から得られた知見

7-1 新地商店街について

近鉄御所駅、JR御所駅の東側に位置する駅前商店街で、約170mの長さがある。近年、商店街の店舗の閉店が相次いでおり、今後の存続が危ぶまれている。複数のソフト事業が実施されているものの、商店街で行われる県主催のマルシェでは、イベント当日、既存商店は営業していないなど、多くの事業で官民間の連携がなされていないことが明らかとなった。

7-2 新地魚市について

商店街主体のイベントとして、新地魚市がある。新地商店街の空き店舗の軒先で月に一回、近隣の異業種の店主が協力し合い、魚を販売しており、今年度で5年目となる。発足当初は魚のみの販売であったが、現在は豆腐屋等の地元商店と共に店を構えている。店主の力のみで行っており、わずかに活動が広がりとつあるが、規模に限界がある。組織としても将来の展望などを議論する場が存在せず、フォローが必要である。今後は、や

る気のある店主の活動を支える意味でも、自店の宣伝も含めたイベントが求められる。

8. ソフト事業の提言

以上の調査結果を踏まえ、以下2点について提案する。

①新地魚市の活動を組織的に拡大

事業継続の必要性があるとともに、来客者・利用者のニーズと現在の運営事情との兼ね合いを埋める運営方針の決定が望まれる。そこで、商店主間での会議を開き、新地魚市にて販売を行う店主、及び商工会役員を出席対象とし、官民間の連携を図ることで、組織的に拡大できると考えられる。

②活性化イベント「まちゼミ」

自店も含めた商店街への愛着を芽生えさせるイベントとして、生駒駅前商店街の調査でも、その有効性が明らかとなった「まちゼミ」を提案する。また、既存のコミュニティカフェを活用することで広報宣伝の活用や実施場所の提供など、既存事業間の効果的な発展が見込まれる。

9. まとめ

本論文では、全国の商店街及び地域型商店街の現状を把握した上で、研究対象として、近隣型商店街である御所駅前の「新地商店街」を取り上げた。当該商店街も、全国の例に漏れず空き店舗が増加しており、商店街としての機能が失われつつある。その状況を打開しようと、ひたむきに活性化に取り組む後継者らの姿勢が見られた。本研究が、このような意欲ある店主らの活動に微力ながら寄与できればと思い研究に勤しんだ。今後は、本論文の提言を実践し、組織づくりの有意性を明らかにしたい。

〔参考文献〕

- 1) 経済産業省 関東経済産業局、注目を集める商店街づくりのポイント～ソフト事業展開の戦略と効果的な広報活動～、(2009)p.1
- 2) 中小企業庁：商店街実態調査報告書
- 3) 黒川健人：新しい時代の商店街の再生に向けて、香川大学 経済政策研究、第7号(2011)

商業施設におけるキッズコーナーの利用実態について —エコー・マミ「キッズパーク」を例に—



藤本 亜美
Ami Fujimoto

西山ゼミ

1. 背景と目的

近年、商業施設や医院、ショールームなど様々な場所で子供の遊び場スペース(キッズコーナー)をみかけるようになった。しかしながら、キッズコーナーの空間計画や使われ方に焦点を当てている既往研究は数少ない。本論は、商業施設エコー・マミに設置されているキッズコーナー「キッズパーク」を対象とし、施設の必要性や安全性、利用状況を把握し、キッズパークの利用実態を明らかにすることを目的とする。

2. 調査概要

2.1 現地調査

(1) 実測・視察調査

スペースの寸法、遊具の種類、エリア分布を実測および目視で調べた。調査期間は平成28年6月2日(土)、午後6時～7時である。

(2) 使われ方調査

1週間、1時間ごとに利用者の数や属性別利用者の分布をカウントした。調査期間は平成28年6月9日(木)～6月20日(月)の各曜日7日間である。

2.1 ヒアリング調査

利用者に1対1の対面方式でインタビューを行った。調査内容は回答者の属性、来場目的、来場手段、利用頻度、不満点、キッズパークの長所、満足度、遊具について、滞在時間である。調査期間は平成28年12月11日(土)～12月31日(土)の計9日間、11時から16時である。

3. 現地調査からみた利用状況

3.1 施設計画

実測結果から平面図を作成し、施設の概要を

把握した(図1)。キッズパークは、キッズゾーン、えほんコーナー、ベビーゾーンの3つのエリアに分かれていた。



図1 キッズパーク平面図

凡例: ■ 遊具設置場所

3.2 曜日別利用者数と時間別利用者数

利用者数は土曜日が141名で最も多く、次いで日曜日が126名であった(図2)。対して、平日は、最も多い火曜日も84名にとどまった。利用者の構成は、付き添い女と乳幼児、付き添い男と児童およびその他の2つに分かれ、付き添い女と乳幼児の利用が多かった。時間別にみると、平日の利用者数は金曜日の15:30が17名で最も多かった(図3)。土日のピークは13:30、14:30と平日より早くなった。

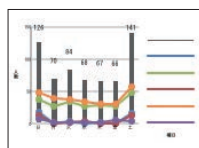


図2 曜日別利用者の総数と属性別利用者数

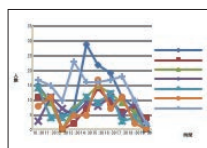


図3 時間別利用者数

3.3 利用者の散布状況

遊具のある場所に児童や乳幼児が多く集まった。また、危険を伴わないように対象年齢を設けて、キッズゾーンとベビーゾーンに分けられているにもかかわらず、キッズゾーンに乳幼児、ベビーゾーンに児童が多くみられた。子供を囲うように付き添い男、付き添い女が多くみられた(図4)。



図4 1週間の利用者分布図

凡例：●付き添い男 ●付き添い女
●児童 ●幼児 ●その他

4. ヒアリング調査からみた特徴と満足度

4.1 キッズパークの満足度と来場目的

キッズパークの満足度は、「やや満足」が54%（101名）で最も多く、次いで「満足」が38%（71名）であった。全体の92%（172名）が満足を示していた（図5）。また、エコール・マミにきた1番の目的は、「買い物」が98名（52%）と最も多く、次いで「キッズパーク」が59名（31%）であった（図6）。利用者の約3分の1がキッズパークを目当てにエコール・マミに来場していた。

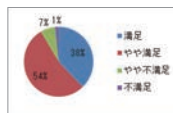


図5 キッズパーク満足度 (n=188)

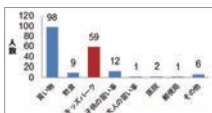


図6 エコール・マミ来場目的 (n=188)

4.2 利用者の居住地

利用者の居住地は「香芝市」が80名（42%）と最も多く、次いで「広陵町」が64名（35%）と、全体の77%を占めていた（図7）。来場手段は、居住地に関係なく車が多く、居住地香芝市のうち77名（96%）、巨樹地広陵町のうち42名（65%）であり、徒歩圏にある地区からも車で来場が多かった。また、居住地に別来場目的がキッズパークの人の割合は、「広陵町・香芝市」が37%であるのに対し、「その他の地域」が14%であった（図8）。キッズパークは近隣住人の遊び場として根付いて、活発な利用が確認できた。

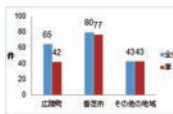


図7 居住地と車で来場数

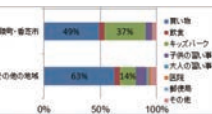


図8 居住地における来場目的の割合 (n=188)

4.3 クロス集計による満足度の関連要因

キッズパークの満足度と最も気に入っている点および遊具の満足度に、有意な関連があった ($p<0.01$)。

最も気に入っている点では、キッズパークの満足度の高さと最も関連が強かったのは「保安」で、56%（9名）である（図9）。遊び場の安全が保たれていることは、付き添い者にとって満足度に大きく関わっていた。

遊具の満足度では、キッズパークの満足度の高さに対し、60%（41名）が遊具にも満足していた（図10）。利用者に乳幼児が多く、遊具に子供の散歩が多いことから、乳幼児向け遊具の設置の充実が満足度に繋がっていると推測できた。

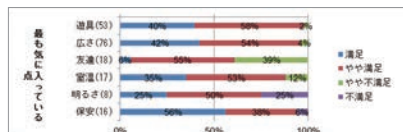


図9 最も気に入っている点に対する満足度の割合 (n=188)

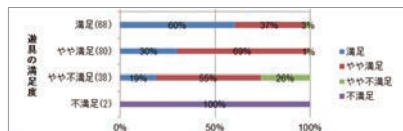
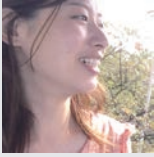


図10 遊具の満足度に対する満足度の割合 (n=188)

5. まとめ

本論では、エコール・マミのキッズパークの利用実態を把握した。利用者は、母親を含む付き添い女と乳幼児が多く、利用の時間帯は13:30から夕方にかけての午後が多かった。乳幼児や児童は遊具に集中し、それを囲うように付き添い者がみられた。利用者の居住地は「香芝市」が最も多く、来場手段は近隣であっても車が多く、地域住人の遊び場とし活発な利用が確認できた。キッズパークの満足度と最も気に入っている点には有意な関連があり、遊び場の安全が保たれていることは、付き添い者にとって満足度に大きく関わっていた。

三世代同居における住宅諸室の共用希望の違いに関する研究



保坂 ゆき
Yuki Hosaka

西山ゼミ

1. 研究の背景と目的

現在の日本は「超高齢社会」となっている。また、高齢者のいる三世代世帯は減少してきたが、近年13%前後でとどまっている¹⁾。「三世代家族は今後も12%前後で持続的に形成されていく」²⁾、「三世代家族の長所や短所が見直され、短所を克服し長所を伸ばす形で新しい三世代家族が作られる」²⁾との指摘もあり、三世代家族は存在し続けることから、三世代同居³⁾に関する現三世代同居者、非三世代同居者の考えを知る必要がある。これらのことから、現三世代同居者と非三世代同居者の共用に関する世代、同居対象者、男女の違いを知り、同居前後の住宅諸室共用への考え方の違いを明らかにすることを目的とする。

2. 調査と分析の方法

調査方法：三世代同居の共用希望に関する

アンケートの実施

調査期間：2016年12月9日～12月26日

調査対象者：畿央大学生とその家族

現三世代同居者への質問項目：三世代同居前の具体的な室^{注2)}ごとの共用希望/実際に住んでいる現在の住宅の具体的な室ごとの共用・分離/三世代同居をした今思う具体的な室の共用希望

全回答者への質問項目：5段階の住宅全体の共用希望の程度/具体的な室の共用希望

自身の親、配偶者の親、子供夫婦と同居する場合それぞれに区分し尋ねた。

分析方法：〈現三世代同居者のみ〉後出する「共用率」により、「同居前の共用希望」「実際に住んでいる現在の住宅の共用度合」「同居後の今思う共用に対する反省」の三つを比較し、同居経験による共用希望の変化をみる。

〈全回答者〉世代、同居対象者、男女間の「共用率」を比較する。さらに、室ごとの共用希望^{注3)}を属性性別に比較する。

3. 共用率の算出

室ごとの共用希望から算出する住宅全体の共用希望の程度を「共用率」と定義し、各室の共用希望との相関を重回帰分析を用い算出することで、住宅全体の共用希望に対する室ごとの共用希望の影響を把握する。

従属変数Y：住宅全体の共用希望（5段階評価→

1～0.75～0.5～0.25～0）、独立変数X1：玄関、X2：浴室・脱衣室、X3：洗面所、X4：台所、X5：食事室、X6：居間（共用したい→1、共用したくない→0）として重回帰分析を行った結果、X3（洗面所）のみ5%水準で有意でなかった。洗面所のデータを除外し再分析を行った結果注4）を表3.1に示す。また、全室共用希望の場合、Y=1となるように表3.1の偏回帰係数の各々を等倍した。本論における「共用率」Yは次のように表される。 $Y = 0.216X1(\text{玄関}) + 0.199X2(\text{浴室・脱衣室}) + 0.163X4(\text{台所}) + 0.159X5(\text{食事室}) + 0.263X6(\text{居間})$

表3.1 重回帰式の偏回帰係数とその有意判定

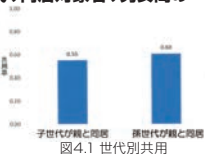
独立変数	偏回帰係数	有意判定
X1(玄関)	0.157	**
X2(浴室・脱衣室)	0.144	**
X4(台所)	0.118	**
X5(食事室)	0.115	**
X6(居間)	0.191	**

** p<0.01

4. 全回答者における、世代、同居対象者、男女間の共用率の違い

アンケート全回答者の世代、同居対象者、男女間の「共用率」を比較する。

世代による共用率の差は小さいが、同居対象者、男女間の共用率の差は大きい。

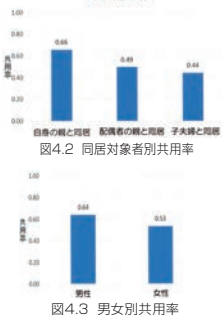


5. 現三世代同居者の同居前後の共用希望の変化

現三世代同居者の「同居前の希望/同居後実際に住んでいる住宅/同居後の今思う希望」の3つの共用率を比較し、同居経験による共用希望の変化をみる。

全体の同居前後の共用率に変化はみられない

が、実際に住んでいる住宅の共用率は高い。この傾向は子世代について顕著である。一方、老親世代は同居前後の希望と現在の住宅の共用率に差はみられない。



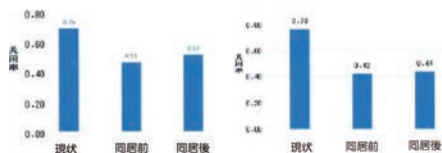


図5.1 全同居者の現在の住宅と同居前後の同居率

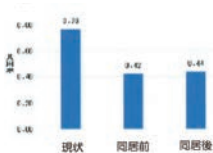


図5.2 子世代の現在の住宅と同居前後の同居率

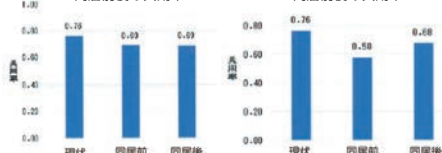


図5.3 老親世代の現在の住宅と同居前後の同居率

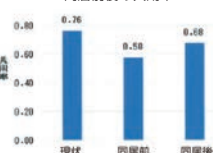


図5.4 孫世代の現在の住宅と同居前後の同居率

6. 非三世同居者における属性別の同居希望の違い

非三世同居者の、三世同居を希望する場合の同居率を「世代」「同居対象者」「男女」の属性別に比較する。さらに具体的な室ごとの同居希望を同属性別に比較する。

(1) 非三世同居者全体

世代別では、「玄関」が全体傾向とは逆に、高齢ほど同居希望が高い。同居対象者別にみると、「台所」「食事室」「居間」に全体の傾向がより強く出ている。男女別では、共用志向の高い男性が「居間」のみそうでもない。

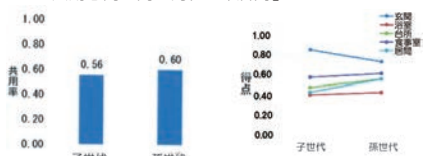


図6.1 世代別 同居率

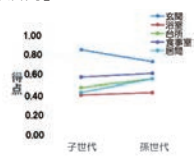


図6.2 世代別 室ごとの同居希望の違い



図6.3 同居対象者別 同居率

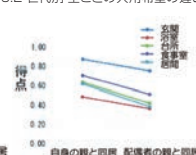


図6.4 同居対象者別 室ごとの同居希望の違い

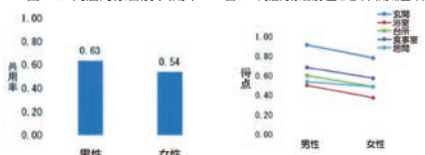


図6.5 男女別 同居率

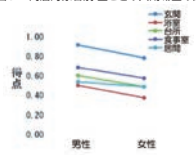


図6.6 男女別 室ごとの同居希望の違い

(2) 男女別の同居対象者間の差

自身の親と同居する場合、配偶者の親とよりも同居率が高いが、その傾向は女性に比べて顕著に表れる。一方男性については同居対象者間の同居率の差は小

さい。各々の傾向は室ごとの同居希望にも共通して言える。

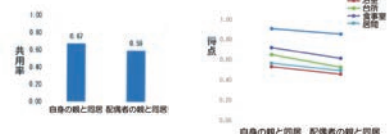


図6.7 同居対象者別 男性の同居率

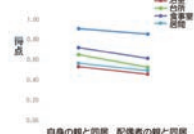


図6.8 同居対象者別 男性の室ごとの同居希望の違い

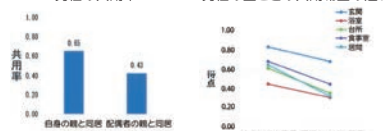


図6.9 同居対象者別 女性の同居率

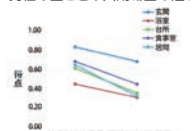


図6.10 同居対象者別 女性の室ごとの同居希望の違い

(3) 世代別の男女間の差

子世代は孫世代より男女差が大きい。しかし、浴室・脱衣室に限り、孫世代の男女差が大きくなり、女性の分離志向が高くなる。

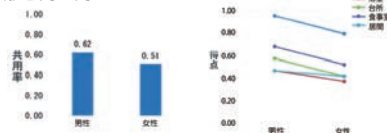


図6.11 男女別子世代の同居率

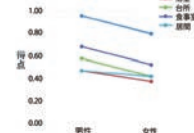


図6.12 男女別子世代の室ごとの同居希望の違い

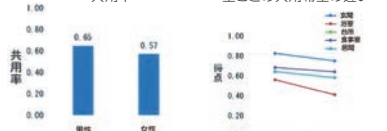


図6.13 男女別孫世代の同居率

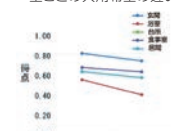


図6.14 男女別孫世代の室ごとの同居希望の違い

7. まとめ

現三世同居者の、同居前後の同居率はこの世代も変化はない。しかし、実際に住んでいる住宅の同居率に対して同居前後とも、子世代は低く老親世代は高い。これより、現在住んでいる住宅は、同居志向の高い老親世代の意見が優先され、子世代の同居前の分離志向は今でも続いていると推測できる。

非三世同居者がその親と同居を希望する場合、全体の傾向として、自身の親と同居する場合は配偶者の親とに比べて同居志向が高い。この傾向は、男性に小さく女性に大きい。しかし、居間に関してのみ男性は同居志向が低い。

参考文献

- [1]平成28年度高齢社会白書(内閣府,2016)
- [2]水上真美子、赤澤淳子、小林大祐,三世同居意識と家規意識に関する研究,仁愛大学研究紀要,(2009),p45-52
- 注1)「三世同居」とは老親、子夫婦、その子が世帯をともにすることとし、本論ではそれぞれを老親世代、子世代、孫世代と呼ぶ。
- 注2)玄関、浴室、脱衣室、洗面所、台所、食事室、居間を指す。
- 注3)具体的な室ごとの同居希望は「共用したい=1、共用したくない=0」と得点化したものを、世代、同居対象者、男女の属性別に平均値を算出し、比較したものである。
- 注4)全室「共用したくない」場合Y=0となるが、実際は定数項の値が異なる。定数項の値は0.059と他の係数に比べて小さかったため、定数項=0として再分析を行った。

エアコン内部における真菌汚染の実態調査 ー管理・使用状況に着目してー



吉川 凌
Ryo Yoshikawa

東ゼミ

1. 研究背景と目的

内閣府の調べによると、我が国の2016年3月時点でのエアコンの普及率は92.5%となった¹⁾。エアコンは私たちの生活に欠かせないものになっているが、使用に伴い、カビ臭等に代表される真菌汚染を起こす。真菌には25℃近辺を至適温度とする一般真菌と40℃近辺を至適温度とする好温性真菌がある。一般真菌はアレルギーの原因、好温性真菌は真菌症の原因になりうる。これまでエアコン内の真菌汚染の実態はいくつか報告されている²⁾が、室内環境や具体的なエアコンの使用率などとの関係を調査した例は少ない。そこで本研究では、各部屋の温熱環境やエアコン使用頻度を調査するとともに、部位別の菌数・菌種の分析を行い、真菌汚染に影響を及ぼす要因を明らかにすることを目的とする。

2. 実験概要

2.1 対象エアコンの概要

関西圏（奈良県、大阪府）6軒の計19台の

表1 対象エアコン概要

住宅	No.	地域	エアコン 使用率	使用 年数	設定 温度	掃除機掛	掃除頻度	階数	起動時の カビ臭
A	1	平野	2%	2	27℃	なし	2～3年に1回	1	なし
	2		33%	5	24℃	なし	1年に1回	2	なし
	3		62%	3	26℃	なし	1年に1回	2	なし
	4		53%	10	26℃	なし	1年に1回	1	なし
	5		13%	4	28℃	あり	半年に1回	1	なし
B	6	東成区	2%	4	28℃	あり	半年に1回	2	なし
	7		0%	4	28℃	あり	半年に1回	2	なし
	8		6%	8	28℃	あり	半年に1回	1	なし
C	9	生駒市	2%	7	27℃	あり	1年に1回	1	なし
	10		0%	7	28℃	あり	2～3年に1回	2	なし
	11		35%	7	28℃	あり	2～3年に1回	2	なし
	12		29%	7	27℃	あり	2～3年に1回	2	なし
	13		29%	7	28℃	あり	2～3年に1回	2	なし
	14		20%	7	29℃	あり	しない	1	なし
	15		0%	12	—	なし	しない	1	あり
E	16	王寺	2%	6	27℃	なし	1年に3回	1	なし
	17		12%	3	27℃	あり	半年に1回	1	なし
	18		12%	5	25℃	なし	1年に1回	1	あり
F	19	橿原市	38%	14	28℃	なし	しない	1	あり

エアコンを対象とした。それぞれのエアコンの使用状況の管理・使用状況の管理・使用状況を表1に示す。

2.2 温熱環境測定方法

エアコンが設置されている部屋の床上60cmの高さに温湿度計(RS-13,エスベック)、エアコンの使用状況を調べるために吹出口に温度計(RT-13,エスベック)を設置した。両者とも5分間隔で自動計測した。なお、測定は夏季7/15～7/22、秋季10/21～10/29の期間に行った。

2.3 真菌の培養・測定方法

ふき取り検査キットPro-media ST-25 PBSを用いて、エアコン吹出口、送風ファンの汚れを10cm²分採取し、サンプルの汚れ度を0～3の4段階で目視判定を行った(図1)。25℃培養分では汚れ度に応じて、希釈倍率を調整(100倍、1000倍、10000倍)し、DG18寒天基礎培地の入った2枚のシャーレに0.5mlずつ植えつけた(図2)。40℃培養分はサンプルの原液をシャーレに0.5mlずつ植え付けた。真菌はインキュベーターで25℃は7～9日間培養後、40℃は3～4日間培養後発生したコロニーを観察した。

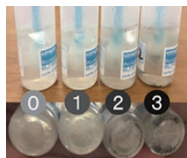


図1 目視判定基準

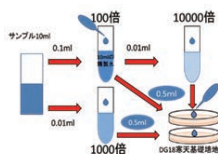


図2 25℃培養手順

3. 結果

3.1 汚れ度と一般真菌数

目視で確認できる蓄積したホコリなどの汚れは栄養源となり、水分を保持して真菌の生長を助ける。汚れ度0.1のエアコンに比べ、汚れ度2.3は検出真菌数が夏季では約16倍、秋季では約5倍になった(図3)。

3.2 掃除機能と一般真菌数

自動でフィルターを掃除する機能付エアコンは、19台のうち11台であった。掃除機能により夏秋通して真菌数は抑えられていた(図4)。フィルターの掃除が真菌汚染の抑制に繋がることが確認できた。

3.3 設置階数と一般真菌数

真菌数はエアコンの設置階によって異なり、1階の部屋は2階の部屋よりも真菌数が多い傾向にあった。夏季では約180倍、秋季では約10倍であった(図5)。真菌が土壌由来のためであることや部屋の用途の影響と考えられた。

3.4 温熱環境と一般真菌数

散布図中に示した 青い 枠線は 乾性真菌の生育範囲、赤い 網掛けは 湿性真菌の生育範囲を示している(図6)。真菌数が30,000cfu/cm²と多かったエアコンは

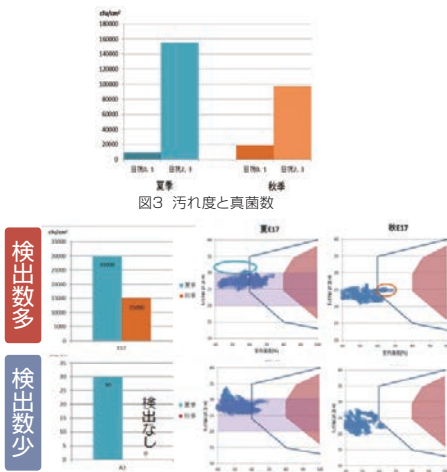


図6 温熱環境と真菌数

夏季30℃を超える部分が少なく、真菌の生育範囲に入る部分が多かった。真菌数が30cfu/cm²と少ないエアコンは30℃を超える部分が多く、真菌の生育範囲に入る部分が少なかった。

4. 好温性真菌

好温性真菌には室内環境で起こりうる疾病の中で、比較的重度である真菌症を引き起こす原因菌が多く含まれる。今回その好温性真菌が19台中7台から検出された。一般真菌が多い場合に検出のリスクが上がると考えられた(図7)。

5. 総括

本研究の結果から、真菌の増殖を抑制する管理方法として、掃除機能付きエアコンの選択や内部の目に見える汚れの除去、温熱環境の管理に気を付けることが挙げられた。また、一般真菌数の抑制は、好温性真菌の抑制にもつながると考えられた。

参考文献

- 1) 内閣府 主要耐久消費財等の普及率(二人以上の世帯) 平成28年3月現在
- 2) 浜田信夫、阿部仁一郎、今日のエアコンにおける好温性カビの汚染状況、日本防菌防黴学会誌、Vol.44, No.8, PP-395-402, 2016

謝辞

真菌の分析方法をご指摘頂いた浜田信夫先生に深謝致します。

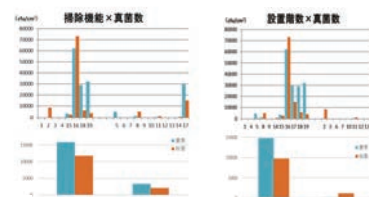


図4 掃除機能と真菌数

図5 設置階と真菌数

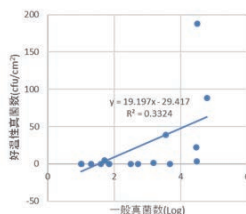


図7 一般真菌数と好温性真菌の関係

地域住民主導型コミュニティカフェの運営モデル



松下 真純
Masumi Matsushita

清水ゼミ

1. コミュニティカフェとは何か

コミュニティカフェとは地域の人々が集う「つながりの場」のことである。地域住民が気軽に立ち寄れる空間、憩いの場として人々に親しまれ、地域コミュニティ活性化に期待されていることから、全国的にコミュニティカフェ事業は広がりを見せている。

2. コミュニティカフェ事業の実態調査目的と概要

コミュニティカフェを運営する組織の形態は様々で、NPO法人、個人や任意団体、行政、商店街、大学、医療機関、福祉施設などが連携し事業展開がなされている事例も多い。コミュニティカフェ事業の実態を調査するうちに、①運営費用と②人員の不足という課題が見えてきた。コミュニティカフェ事業は、金銭的利益を主軸としない活動であるため、運営費用の確保が難しい。そのため、運営スタッフはボランティアであることが望まれることから、コミュニティカフェ運営に必要な数の人員の確保が難しい。そこで、本研究では御所市の事例を元に、運営に携わるボランティアスタッフに着目し、その傾向を探ることを目的とする。

調査概要

奈良県御所市で行われている金曜カフェ〜つどい〜を研究対象とし、地域住民主導型のコミュニティカフェ運営の実態について調査した。参与観察と共に、ボランティアスタッフ5名に対しヒアリング調査を行った。調査内容は、①ボランティアスタッフの属性②生活全般③友人関係について ④ボランティアスタッフになってからの、生活スタイルや心

境に変化。の4点である。

3. 金曜カフェ〜つどい〜について

金曜カフェ〜つどい〜は、大学と行政が連携し、運営されているコミュニティカフェである。

開設当初から金曜カフェが地域住民の力で運営できるようサポートすることが大きな目標とされてきた。現在までに、大学側が全面的に運営を行う形から、少しずつ住民主体の運営に移行がなされてきており、今年度より地域住民によるボランティアスタッフが主軸となる運営形態に移行した。

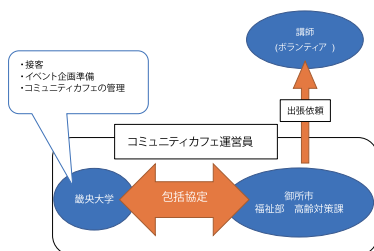


図1 2015年運営組織

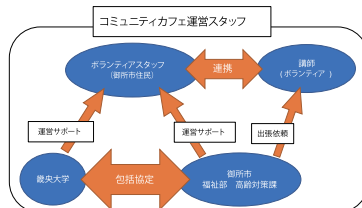


図2 2016年運営組織

ボランティアスタッフの仕事は、①カフェの開店準備②接客、ドリンクサービス③カフェ内の清掃④物品管理である。これらの仕事

を、毎回2、3人が交代で行っている。金曜カフェでは定期イベントが営業時間に合わせて行われているが、イベントの企画、講師の手配などは、今年度より完全に御所市に移行された。

4. 運営形態の移行に伴う変化

4-1 運営形態

運営形態の変化は図1、図2の通りである。大学側の提案により、今年度からスタッフ会議を行った。会議の構成メンバーは、ボランティアスタッフ、御所市職員、学生、定期イベント講師である。この会議は2か月に1度行われ、運営における様々な問題について議論を行った。定期的な会議の実施により、表1のような変化がみられた。

表1 仕事の変化

状況	見られた変化
飲み物の準備提供	飲み物を準備する前に、参加者に対して希望の飲み物を聞くようになり、余らせることが少なくなった
飲み物のサービス時	参加人数が多いときには、参加者に手伝いを依頼するアナウンスができた
接客1	ボランティアスタッフ自らが入口まで出迎えをし、呼び込みを行うようになった
接客2	室内の気温管理に勤め、参加者の体調を気遣う声かけをしていた
物品管理	家にあまらせてある消耗品を持ち寄り、コミュニティカフェに提供した

4-2 ボランティアスタッフの傾向

属性と生活の調査から、ボランティアスタッフは外出頻度が高く、適度な運動を行っていることがわかった。さらに、友人関係においては、5名中4名が近所の人と週に4、5回以上話すと回答した。

表2 友人との付き合いについて

友人との付き合いについて	回答数
お互いの家を行き来し合う	4名
一緒に食事や外食をする	5名
電話やメールをする	5名
世間話をする	5名

友人との付き合いの深度についての回答からは、表2の通り、4名のボランティアスタッフが、一緒に食事をし、お互いの家を訪問し合う仲の友人が存在することが分かった。これらの結果から、ボランティアスタッフは健康状態に不安がなく、コミュニケーションが積極的に行え、社会的であるものが多いといえる。

さらにヒアリング調査によって、ボランティアスタッフは金曜カフェ以外にも様々な趣味サークルや、ボランティア活動にも積極的に参加していることが分かった。

ボランティアスタッフになったことによる心境の変化についての質問に対しては、回答者全員がすらすらと話してくれた。これは、自分がボランティアスタッフであるという意識付けがきちんとなされていることの表れだと言えるだろう。

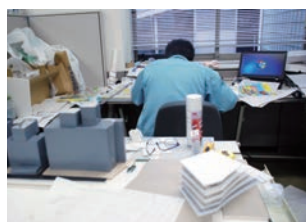
5. まとめ

本研究から、下記の3点の特徴が明らかとなった。①ボランティアスタッフは健康状態に不安がなく、コミュニケーションが積極的に行え、社会的であるものが多い②ボランティアスタッフは、様々な趣味サークルや他のボランティア活動にも積極的に参加している③スタッフ会議を行うことで主体的に運営組織との関わりを持ちはじめ、比較的スムーズに大学主体から地域主体への運営に移行している。

本研究を通じて、今後、各地でコミュニティカフェ事業が発展を見せるためには、「地域コミュニティを再構築する実践的な場」としての位置付けがなされるべきであると考えた。コミュニティカフェが地域コミュニティの中心軸となり、行政や民間と連携し、地域住民を巻き込んで運営していくことが、地域住民主導型コミュニティカフェの発展だと考える。



三井田ゼミ
Koki Miida Seminar
建築・まちづくり計画



東ゼミ
Michiyo Azuma Seminar
生活環境学
住居学・人間工学



西山ゼミ
Noriko Nishiyama Seminar
インテリア計画、
インテリアデザインなど



藤井ゼミ
Toyofumi Fujii Seminar
住宅・建築・都市等の
建築関連分野





加藤ゼミ

Shinki Katoh Seminar

インテリアデザイン・住宅設計
家具デザイン・店舗デザイン
環境デザイン・その他

村田ゼミ

Hiroko Murata Seminar

生活科学 被服学

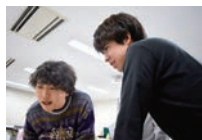


ゼミのテーマ

李ゼミ

Wonjon Lee Seminar

色彩



清水ゼミ

Hiroko Shimizu Seminar

商店街活性化
福祉のまちづくり





選抜発表者：

石橋佑資
佐々木大貴
平井直大
吉原佐織

東本衣里
清水康平
藤山大輔
以上 18 名

野村祐司
土井美沙
松田竜樹
17 グループ

小笹夏海
野田眞之介
萬本 萌

木之本琴子
橋爪美春
村上 桃

小松智菜美
平井美香
吉川 凌

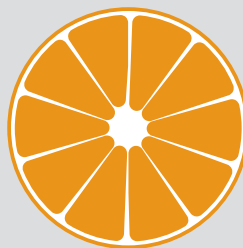
畿央大学 健康科学部 人間環境デザイン学科

第11回 卒業研究講評会

全体発表会 2017年2月9日 10:00~16:30

選抜発表会 2017年2月10日 13:00~17:00

会場:KB04教室



平成 28 年度 卒業研究

学長賞 藤山大輔

優秀賞 野村祐司 小笹夏海
小松智菜美 土井美沙

以上 5 名 5 グループ







2016年度畿央大学 健康科学部
人間環境デザイン学科

卒業研究・作品展

会場: 奈良県文化会館

会期: 2017年2月25日(土)

10:00~18:00

26日(日)

10:00~16:00





GRADUATION EXHIBITION 2016



奈良県文化会館 D 展示室

2017. 2. 25 (Sat.) 10:00—18:00

2. 26 (Sun.) 10:00—16:00

KIO UNIVERSITY

畿央大学人間環境デザイン学科

たくさんのご来場ありがとうございました。

講評

斬新なアイデアと楽しむ遊び心

毎年人間環境デザイン学科の卒業研究・作品発表会を拝見しています。今年は第11回目ですから、1クラス約70名の学生がいるとしてこれまでで800名近い学生の作品が提出されてきたことになります。その中で二つとして同じものはありません。各自が独自のアイデアをもって制作にあたってこられたのです。他人と違ったアイデア。これこそが学問の分野でも、芸術の分野でもあるいは企業などの生産活動や、サービスの分野でも重要なものなのです。斬新なアイデアで他の人に訴え掛ける。卒業を前にしてそのような“修業”をした集大成が卒業研究・作品発表会なのです。建学の精神の一つ「美を作る」をみずから身をもって実現しているのが人間環境デザイン学科で学ばれた皆さんではないかと思います。

提出期限ギリギリになると期限を守るために徹夜されたこともあったでしょう。大変だったことと察しますが、一方楽しくもあったことと思います。どうかこれからも自分の成果に自信を持ち、この思い出とともに元気よく社会へ羽ばたいてください。皆さんのこれからの姿を見守っていきたいと思っています。

健康科学部 学部長
金子 章道

君たちは、卒業制作、卒業研究、よく頑張った。

私は、君たち全員に「学長賞」で報いたい。

君たちの本当の勝負は社会に出てからはじまる。この気持ちを忘れずに、卒業してからも、仕事に、生活に、真摯に向き合ってほしい。

これからは、君たちが会える人すべてが君たちの「先生」になる。様々なことを吸収して、はやく大きくなれ。

明治維新の礎を築いた松下村塾の門弟たちを、かの吉田松陰は次の言葉をかけ世に送り出した。私もその言葉を、諸君に贈りたい。

「至誠にして動かざる者は 未だ之あらざるなり。」

「今日よりぞ 幼心を打ち捨てて 人に成りにし 道を踏みかし。」

人間環境デザイン学科 学科長
三井田 康記

ご卒業おめでとうございます。いま作品集を手にして、昼夜を分かたず作業に冒頭した日々がつい最近のような、それでいて遠い過去のような気がしているのではないかと思います。今年は力作揃いで感心しました。

卒業研究に関しては、当初は無邪気で欲がない（ようにみえる）君たちに戸惑いを感じつつ指導をしていましたが、R棟3階にスプレーのりと塗料とカップ麺のにおいが漂うようになった頃、知識欲を垣間見る瞬間がありました。膨大なデータと格闘しても使える結果はごく一部。それでも諦めずに見えない何かを探し続けましたね。「わからないから終わらない」「これでいい、というときはない」美術家、篠田桃紅さんの言葉です。

提出日の後、ゼミ室のゴミ箱には清掃員の方々に向けたみなさんからの感謝のメッセージが添えられていました。これからも素直な心持ちはそのままに、人生をよく生きてください。

みなさんの母校、畿央大学よりエールを送っています。

人間環境デザイン学科 主任
東 実千代

皆さん、4年間の学びの集大成である卒業研究に対する取り組みはいかがでしたか。満足している人、反省のある人いろいろでしょうが、全員の頑張り、そのパワーは素晴らしいものでした。

ノートルダム清心学園理事長であった渡辺和子さんは、「今という瞬間は、今を先立つわたしの歴史の集大成であると同時に、今をどう生きるかが次の自分を決定するということです。人生は点のつながりとして一つの線であって、遊離した今というものはなく、過去とつながり、そして未来とつながっているわけです」と語られています。

今日皆さんは、人生に畿央大学卒業という一つの点を打ちました。よく学びよく遊んで、また、よく笑いよく怒られて描いたこの4年間の線に自信をもち、新しい場所で羽ばたいてください。また、いつまでも仲間を愛し、それぞれの線をつなげて面にし、新しい世界を築いてください。活躍を期待しています。

卒業おめでとうございます。

西山 紀子

なかなかの力作揃いでした。諸君の集中力とものづくりへの情熱に敬意を表します。しかしながら私は、多少の疑問も感じています。うまいプランも格好良いデザインもプロ顔負けの模型もあったのだけれど、君たち自身の「何をつくるべきか」「これからの建築は」との思索はどれだけあったのだろうか。もちろん建築は個別の条件への解答ですが、同時に、普遍的な未来に対する提案でもなければならぬのです。

明日から実社会へ出る君たちは、効率を問われ、次々に成果を求められるでしょう。しかし本当は、仕事をこなすことより、仕事で為すことの方がずっと重要です。森岡外曰く、「学校というものを離れて職業にあり附くと、その職業を為し遂げてしまおうとする。その先には生活があると思うのである。そして、その先には生活はないのである」。いつも考え続けて下さい。自身の、社会の、人類の未来のために何を為すべきかを。

このおめでたい日に説教じみた台詞を失礼。手放して褒めないのは僕の悪い癖です。諸君の健闘と幸福を祈ります。また（酒場で）会いましょう。

藤井 豊史

「やさしさをデザインに変える」

本年度の卒業研究の中にも建学の精神(徳をのばす・知をみがく・美をつくる)が脈々と流れているように感じました。とりわけ最後の「美をつくる」はデザインとも関わりが深く、改めて美をつくる難しさを知りました。また、畿央大学には「やさしさをチカラに変える」という僕の大好きなキャッチフレーズがあります。やさしさもさまざまに解釈できます。勝手な定義ですが、やさしさとは「人間に対する思いやりを持ち、環境へ配慮したデザイン」といえるのではないのでしょうか。今やデザインは甚に溢れ、デザイナーでなくてもデザイン？ができる時代になっています。嘆かわしいことだと思いますが、時間はとまってくれません。矛盾した社会の中で、だましだまし頑張ることもあるでしょう。真摯な姿勢を貫けば見ている人は見えています。この卒業研究で培ったデザインのチカラを今後は社会に反映させていき、未知の可能性を精一杯広げていってほしいと願っています。

加藤 信喜

みなさん、1年間の卒業研究お疲れ様でした。
今年の発表会は、たっぷり時間をかけて回りました。
作品、論文からそれぞれの4年間の成長を実感しました。
私は今、みなさんが入学時の宿泊研修で書いた「夢をチカラに」を読み返し、懐かしさに浸っています。
「インテリアを学びたい」、「建築士を目指す」、「アパレル関係で働きたい」、「先生になりたい」と書いた学生さん。その通りになりました。ぶれずに頑張りました。
また「第一志望ではないけど最高の4年間にしたい」、「サークルで活躍したい」、「自分を認めて自分を好きになれるくらい頑張りたい」、「自分の目で見て自分の肌で感じることを大切にしたい」と書いた学生さん。本当にそのように過ごした4年でした。
もう社会に送り出しても大丈夫ですね。
みなさんの門出にエールを送ります。

村田 浩子

畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科11期生のみなさん、大変お疲れ様でした。この1年間、畿央大学で4年間学んだことの集大成としてひとつのカタチに仕上げるまでいろいろとそれぞれの苦労があったかと思います。ひとり、またはふたりがチームとなり、就職活動と同時に卒業研究のテーマを決め、予備調査と打ち合わせなど、ひとつの「カタチ」にするまで、試行錯誤の繰り返しの末、得られた結果に対する達成感、満足感は今やしっかり身についているはずです。苦労したことも楽しかったこともすべて忘れられない素敵な思い出となり、今後この貴重な経験は社会人の仕事においてしっかりと活かされることに間違いないと思います。自分を信じて前向きに頑張ってください。いつも陰ながら応援しています。

李 沅貞

卒業研究発表会では、自信を持って説明する姿を、感慨深く拝見しました。
人生で初めての研究活動だったと思いますが、私にとっても初めての卒論指導で、何度も指導方法に迷いながら、共に模索を重ねた数ヶ月でした。さらに、緊急入院という、想定外の「空白の2ヶ月」には、大変申し訳なく思っています。しかし、不在の間の成長ぶりには、目を見張るものがありました。支えてくださった先生方や仲間たちに感謝すると同時に、頑張った自分を褒めてあげてください。

想像以上にストイックで厳しい指導だったと思いますが、一年間ついてきてくれてありがとう。みなさんに巡り会えたことは私の宝です。心から感謝とねぎらいの言葉を贈りたいと思います。たくさんの山を乗り越えたこの一年間の経験は、今後の大きな糧となることでしょう。これからは自己実現のために、より一層多くの知識と経験を積んで頑張ってください。

みなさんの未来に幸多かれとお祈りいたします。

清水 裕子

卒業おめでとうございます。

また、ほとんどの方はすでにご存知かと思いますが私も今年度をもって畿央大学を退職することとなりました。旅立つという意味では皆さんと同じになってしまいました。

私が最後の仕事として見ることになった今年度の四年生の卒業研究は、どれもしっかりしていてこれまで見てきた11年間の中で一番平均レベルが高かったです。

この一年は次年度に向けて自分のことにかまけてしまい、今にして思えばもっと関われたのではないかと、助教として何かしてあげられたのではないかと、それだけが心残りですが、皆さんが4年間しっかりと学んできた成果は、私に届いております。

毎年卒業生にはいつでも大学に遊びに来てね、と言えたのですが、もう私には言えません。

でもいつかまた、社会人として成長した皆さんとお会いできればと思います。

最後に、私の好きなバレエダンサー Sylvie Guillemé の言葉を送ります。

「誰にでも自分のできる範囲でやれることがある」

今後の人生、何かやろうと思ったらあきらめず、一人の人間として立ち向かってください。

長井 典子

卒業制作、ホントにお疲れ様でした。

私がみなさんと出会ってから1年。なかなか顔を合わせる機会もなく、講評会で初めて話をした子もたくさんいましたよね。どんな素晴らしい大学生活を送ってきたのかな…講評会でみなさんと話し、作品を見てて思いました。もっとたくさん、いろんな話をしたかったです。

優しい子たちばかりで、笑顔で話しかけてくれるみなさんに、初めての仕事に不安だった私も励まされていましたよ。本当にありがとう。

大学を卒業して社会人になると戸惑うこともたくさんあると思います。でも、みなさんなら大丈夫！どんな時も笑顔を忘れず頑張ってください。みなさんの笑顔は相手だけではなく、自分自身も支えてくれるはずです。また会える日を心から楽しみにしています。

中井 千織

本学における四年間の学修の集大成として、学生諸君が全身全霊を傾けた卒業研究・制作の講評に今年も参加させていただいた。本学科第1期生から11回目を迎える今年は、私にとっては最後の機会でもあり感慨深いものがある。

本学科の性格上、その内容が広範囲で多岐にわたる中で、どの分野の作品も、学生諸君の身近な生活に根ざして、人が快適に過ごせる空間を作るために、探求・発見・創造したうえで、本学で修練した専門の知識・技術を駆使し、豊かな生活環境の創造に向けて、若者らしい多くの可能性を秘めた提案がなされていた。

多くの作品に込められた提案が、卒業研究のための一過性のアイデアにとどまることなく、本学を巣立った後も、熱意とこだわりを持って後世に残るものづくりへと発展的に有効に生かせるようなものに昇華させてくれることを期待している。

岡井 豊治

健康科学部
人間環境デザイン学科 教員

教授

学部長 金子 章道
学科長 三井田康記
主任 東 実千代
西山 紀子
藤井 豊史

准教授

加藤 信喜
村田 浩子

講師

李 沅貞

助教

清水 裕子

特任助教

長井 典子

助手

中井 千織

岡井 豊治

編集委員

長井 典子
中井 千織

荒木田夢華
太田 熙
楠田さおり
束花 颯斗
藤田 直樹
松池 純平
松下 由依
宮木 萌依
森川 暖佳
矢野紗由里
飯田奈那美
池田 一貴
神戸 未来
木原 由貴
平山真菜実
別役 潤

以上

